

花園法皇・日峰禪師関連年表

——初期妙心寺史年表稿——

小林圓照・雄山学人共編

は し が き

電算の利用によって、年譜・年表作成が比較的容易となって来た。世は年表ばやりの観もある。ただ事実の細密な羅列に終らず、情報の厚みの中から、いままで「見えてこなかったもの」を見抜く、読史の眼力が、いま必要となっている。

本稿は花園法皇と日峰禪師との事歴研究の中からの副産物であり、小林が資料、雄山が電算処理を担当した。作業の眼目は法皇と禪師との略年譜を作成することにあつたが、大応国師誕生(1235年)から利貞尼の妙心寺寺領寄進が確定する(1510年)までの幅をとった年表であるので、結果的には『初期妙心寺史年表』作成への習作となっている。両編者は史学的研鑽において未熟な者であり、専門的視点からは多々不備であろうが、江湖の諸先生の検討・批判を経て、よりよい年譜・年表作成への「たたき台」となれば幸甚である。

1992年10月22日

- 注記① 「出来事1」は花園法皇・日峰禪師・妙心寺派関連事項を中心とする。「出来事2」は仏教・文化・一般事項を中心とする。ただ時代により、禪の記事を1から2へ移し、かならずしも統一していない。
- ② 記載の月日は旧暦であり、花園・日峰の年齢は数え年である。
- ③ 南朝の年号はその元年のみを記入した。
- ④ 同一記事でも月・日などが相違するときは併記した。

花園法皇・日峰

西暦	北朝	閏	年	月	日	季	齢	出来事 1
1235	嘉禎		1					南浦紹明，駿河国安倍郡に生れる
1235	嘉禎		1					
1235	嘉禎		1	1	27			
1235	嘉禎		1	4				東福円爾弁円，栄尊・湛恵と入宋，無準師範の門に入る〈神子・聖一年譜〉
1235	嘉禎		1	6	3			
1236	嘉禎		2					
1236	嘉禎		2					九条道家，東福寺を開創，開山円爾弁円（聖一国師）
1236	嘉禎		2	10	15			
1237	嘉禎		3					
1237	嘉禎		3	10				径山の無準師範，東福円爾弁円に法語一篇を与える
1238	暦仁		1	3	23			
1238	暦仁		1	6				栄尊，無準師範より嗣法して帰る
1238	暦仁		1	6	2			
1239	延応		1					
1239	延応		1	1				無準師範，仏鑑禅師の号を賜る
1239	延応		1	8				
1240	仁治		1					
1240	仁治		1	5	14			
1241	仁治		2	3				東福円爾弁円，無準師範より嗣法する
1241	仁治		2	7				円爾弁円，「無準師範像」（東福寺）を持って宋より帰国し，筑前崇福寺・承天寺等を創建する〈神子禅師年譜・聖一国師年譜・元亨积書〉
1241	仁治		2	7	15			
1241	仁治		2	7	17			
1241	仁治		2	10	14			
1242	仁治		3					
1242	仁治		3	5	23			
1243	寛元		1	2				東福円爾弁円，京都に上る

禅師関連年表

出来事 2

道元、『僧堂勸進疎』を撰し、真字『正法眼蔵』に序する
幕府、鎌倉中の僧徒の武装を禁止する〈吾妻鏡，沙汰〉

六波羅に、石清水神人と興福寺衆徒との山城薪荘・同大住荘での水争いを鎮定させる〈百練抄明〉

《高麗版大蔵経，開版（～'52）》

道元，宇治興聖寺に僧堂を開く〈建搦記〉

嘉禎年中，懷辨，『正法眼蔵随聞記』を編む〈奥書〉

浄光，鎌倉に大仏を建立〈吾妻鏡〉

高信，『梶尾明恵上人遺訓』を編む〈奥書〉

《モンゴル軍，チベットに侵入する》

東福寺仏殿成る

然阿良忠，鎌倉蓮華寺に住する〈光明寺開山御伝〉

延暦寺衆徒，祇園社神人に専修念仏を妨害させる〈延暦寺公文審賢書状〉

退耕行勇寂する79歳〈延宝伝灯録〉

厳島神社本社社殿（国宝），再興される〈厳島文書〉

親鸞『唯信鈔』を書写する（19日にも）〈奥書〉

この頃醍醐寺本『法然上人伝記』成る

当麻曼荼羅厨子扉（国宝）成る〈銘〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事 1

1243	寛元	1	8		九条道家，東福寺を創建し，円爾弁円を住持とする〈神子禪師年譜・聖一國師年譜・元亨積書〉
1244	寛元	2	2		
1244	寛元	2	5		
1245	寛元	3			円爾弁円，『宗鏡録』を奏進する〈神子禪師年譜・聖一國師年譜・元亨積書〉
1245	寛元	3			
1246	寛元	4			この年，蘭溪道隆，宋より博多に到着し後，泉涌寺に住する〈蘭溪和尚行事・元亨積書〉
1246	寛元	4	3	23	
1246	寛元	4	6		
1246	寛元	4	6	8	
1247	宝治	1			
1247	宝治	1	8		
1247	宝治	1	11	26	
1248	宝治	2	2		
1248	宝治	2	10		
1249	建長	1			
1249	建長	1			南浦紹明，鎌倉に出て蘭溪道隆の室に入る
1249	建長	1	3		無準師範寂する72歳
1250	建長	2	12		蘭溪道隆，相模の常楽寺に住する
1251	建長	3			
1251	建長	3			
1251	建長	3			北条時頼，建長寺を建立しはじめる。開山蘭溪道隆。～1253（建長5）年落慶
1251	建長	3	4		
1251	建長	閏	3	9	20
1251	建長	3	10	1	
1251	建長	3	12		建長寺にて入仏供養，蘭溪道隆，導師をつとめる
1252	建長	4			
1252	建長	4	2	21	
1253	建長	5	4	28	
1253	建長	5	8	28	道元寂する54歳〈建斯記，元，永平〉

出来事2

道元，大仏寺を開き招請される（寛元4年，永年寺と改められる）
 《耶律楚材寂する55歳》

《『祖堂集』開版されるる》

北条経時，弟時頼に執権を譲る〈吾妻鏡〉
 越前大仏寺を永平寺と改称する〈永平，道元，建徳〉
 建仁寺，焼く〈葉黄記〉

一山一寧生れる
 時頼，道元を招く〈永平，道元〉
 証空善慧没する71歳〈法水分流記〉

永観『往生拾因』刊行する〈刊記〉
 筑前承天寺，焼く〈聖一國師年譜〉

無本覚心入宋，痴絶道沖に謁する

この年，普門，入宋する〈無関和尚塔銘〉
 《高麗版『大蔵経』重刻成る》

円照，東大寺戒壇院に移る〈円照〉
 親鸞，書状を書いて，常陸における有念・無念の論争を制止する〈末灯鈔〉
 宗性，『日本高僧伝要文抄』を編む〈奥書〉

『五灯会元』慧明編成る
 東福寺開基，藤原道家没する60歳〈百練抄，不知，公〉

日蓮，安房国清澄寺で法華経題目を唱え，鎌倉で開宗布教を開始する〈日蓮遺文〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事 1

1253	建長	5	11	25	鎌倉建長寺供養，蘭溪道隆，導師となる〈吾妻鏡〉
1254	建長	6			
1255	建長	7	6		藤原実経，東福寺を慶讃，円爾弁円，開堂する
1256	康元	1			
1257	正嘉	1			
1257	正嘉	1			この年，時頼，円爾弁円を鎌倉に招き，ついで京都建仁寺住持とする〈聖一国師年譜〉
1257	正嘉	1			
1257	正嘉	1	3		東福円爾弁円，後嵯峨上皇に菩薩戒を授く
1258	正嘉	2			この年，出羽・陸奥・淡路の悪党蜂起する〈新追〉
1258	正嘉	2	1		
1258	正嘉	2	4	17	
1258	正嘉	2	5		円爾弁円，建仁寺諸堂・東福寺仏殿を修造する〈聖一国師年譜〉
1258	正嘉	2	5		東福円爾弁円，京都建仁寺に住する
1258	正嘉	2	5	1	
1258	正嘉	2	6	24	
1258	正嘉	2	8	28	
1259	正元	1			
1259	正元	1			南浦紹明，入宋して虚堂智愚に参ず（25歳）
1259	正元	1			蘭溪道隆，建仁寺に住する
1260	文応	1			
1260	文応	1	4		
1260	文応	1	7	16	
1261	弘長	1			東福円爾弁円，建長寺に兀庵普寧を尋ねる
1261	弘長	1	5	12	
1262	弘長	2			
1262	弘長	2			
1262	弘長	2			虚堂智愚，栢藪寺を退き，雪竇山に閑棲する
1262	弘長	2	8		古林清茂生れる
1262	弘長	2	11	28	
1263	弘長	3	2	22	

出来事 2

冬、円照、造東大寺大勸進となる〈円照上人行状〉

義尹、宋より帰国する（建長5年入宋）〈寒岩禪師略伝〉

鎌倉寿福寺、焼く
延暦寺衆徒、園城寺戒壇建立の勅許を怒り、強訴する〈百鍊抄〉

園城寺戒壇の宣下を停止する〈百鍊抄〉
鎌倉、冬の如し〈吾妻鏡〉
火星の動き方や大流星により、幕府、明年予定の将軍上洛を取りやめる〈吾妻鏡〉

徹通義介、入宋、天童山に登る

兀庵普寧、来日する〈聖一國師年譜〉
無門慧開寂する78歳
日蓮『立正安国論』を北条時頼に上呈する〈安国論御勘由来〉

日蓮、伊豆に配流される〈日蓮聖人註画讃〉
無関普門、宋より帰国する〈大明国師無関和尚塔銘〉
明極楚俊生れる

親鸞（浄土真宗開祖）寂する90歳〈西本願寺本教行信証奥書〉
日蓮赦免される〈報恩抄〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事 1

1263	弘長	3	5	
1264	文永	1		
1265	文永	2		
1265	文永	2	8	虚堂智愚，径山万寿禅寺に移る。南浦紹明これに従い，一夜大悟する
1266	文永	3		
1267	文永	4	6	
1267	文永	4	7	南浦紹明，帰朝し建長寺の知蔵となる33歳
1268	文永	5	1	29
1268	文永	5	6	
1269	文永	6		
1269	文永	6		円爾弁円，東大寺幹事となる〈聖一国師年譜〉
1269	文永	6		
1269	文永	6	10	虚堂智愚，寂する
1270	文永	7		蘭溪道隆，甲斐永岳寺を草創する
1270	文永	7	1	27
1270	文永	7	10	28
				南浦紹明，筑前興徳寺に入寺する36歳
1271	文永	8		
1271	文永	8	2	
1271	文永	8	9	12
1272	文永	9	2	15
1272	文永	9		
1272	文永	9		
1272	文永	9	2	
				東福円爾弁円，入内説法する
1272	文永	9	2	17
1272	文永	9	12	25
				南浦紹明，崇融寺に入寺する
1273	文永	10		
				亀山天皇，円爾弁円より大乘戒を受け給う
1273	文永	10		
				この年，円爾弁円，天皇に菩薩戒を授ける〈聖一国師年譜〉
1273	文永	10		
1273	文永	10	1	
1273	文永	10	3	
1273	文永	10	10	

出来事2

日蓮、配流を許される

この年、兀庵普寧、宋に帰る〈元亨釈書〉

白雲慧暁、入宋、希叟紹曇に謁する〈仏照禪師塔銘〉

延暦寺徒蜂起する〈吉統、外日〉

凝然、『八宗綱要』を著す〈跋〉

物初大観寂する68歳

この年、北条時宗の招きで、宋より大休正念、来日する〈元亨釈書〉

『仏祖統紀』（志磐編）なる

北条時茂没する30歳〈一代要記〉

《元朝、始まる》

無文道燦寂する

日蓮、佐渡に配流される

時宗、兄時輔を京都で誅殺する〈鎌倉年代記〉

日蓮、佐渡にて『開目鈔』を著す〈同上〉

覚信尼、親鸞の廟堂を建てる（本願寺の創建）

後嵯峨法皇崩ずる53歳〈帝王編年記〉

惟康『無文印』『無文道燦禪師語録』を編む

東福寺、法堂成る

元使趙良弼、太宰府に至るが、国都に入れず、帰る〈高麗史節要〉

京都万寿寺、焼く

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齡

出来事 1

1274	文永	11			夏	
1274	文永	11	2	14		
1274	文永	11	4	8		
1274	文永	11	5	12		
1274	文永	11	10	5		
1275	建治	1				亀山上皇，円爾弁円に儒仏道三教の要旨を諮問する
1275	建治	1				この年，円爾弁円，亀山上皇に儒・道・仏三教を進講する〈聖一国師年譜〉
1275	建治	1	4	15		
1275	建治	1	9	7		
1275	建治	1	11			夢窓疎石，伊勢に生れる
1276	建治	2				後深草上皇，円爾弁円より受戒せられる
1276	建治	2				
1276	建治	2				
1276	建治	2	3	15		
1276	建治	2	3	23		
1277	建治	3				
1277	建治	3	1	7		関山慧玄（開山無相大師），信濃源氏の流れを汲む高梨家に生れたとされる
1277	建治	3	6			
1277	建治	3	6			
1278	弘安	1				
1278	弘安	1				蘭溪道隆『大覚禪師語録』を論ずる
1278	弘安	1	4			
1278	弘安	1	7	24		蘭溪道隆寂する66歳〈元亨積書〉
1279	弘安	2				建長寺へ巨福山天下禅林の勅額を賜う
1279	弘安	2	6			
1279	弘安	2				
1279	弘安	2	7	29		
1279	弘安	2	8	20		
1280	弘安	3	10	17		円爾弁円寂する79歳〈聖一国師年譜〉
1281	弘安	4				心地覚心，禅林寺に住する

出来事 2

一遍、熊野本宮に参籠、念仏賦算の神示をうけ、時宗を開く〈一遍上人絵伝〉
 幕府、日蓮を赦免する〈報恩抄〉
 日蓮、平頼綱と蒙古問題を論じ、対策を進言する〈撰時鈔〉
 日蓮、鎌倉を出て、17日、甲斐身延に着く〈日蓮書状〉
 元・高麗軍、対馬を侵し、筑前に上陸する／のち大風おこり船団漂没する(20日)〈八幡愚童訓甲本〉(文永の役)

元使杜世忠ら、長門室津に至る〈関東評定伝〉
 幕府、杜世忠らを鎌倉竜ノ口にて斬る〈関東評定伝〉

『続拾遺集』成る
 峨山韶碩、能登羽咋に生れる
 叡尊、亀山上皇に授戒する〈感身学正記〉
 叡尊、後深草上皇に授戒する〈感身学正記〉

北条義政、落髪する

執権の得宗時宗、先に突然出家した連署北条義政の所領を没収する〈関東評定伝〉
 宋国の滅亡により、渡宋商船の交易を廃止する(建治)

建仁寺、焼く

虎関師鍊、京都に生れる

北条時宗の招きにより、無学祖元・鏡堂覚円ら、来日する〈元亨釈書〉
 《杭州大普寧寺で大藏経出版開始》
 朝廷、元の牒状を審議して幕府に委ね、幕府は元使を周福寺にて斬る〈勘仲記、関東評定伝〉
 時宗、無学祖元を建長寺住持とする〈円覚寺文書〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齡

出来事 1

1281	弘安	閏	4	7	1	
1281	弘安		4	9		高峰顯日，建長寺の子元祖元より無準師範相伝の法衣を受ける
1282	弘安		5	3	1	
1282	弘安		5	10	13	
1282	弘安		5	12	7	宗峰妙超（大燈国師），播磨揖西に生れる
1282	弘安		5	12	8	
1282	弘安		5	12	8	円覚寺開創（無学祖元が開山，時宗が開基）
1283	弘安		6			関山慧玄，月谷に師事する
1283	弘安		6	8		
1283	弘安		6	1	6	
1284	弘安		7			
1284	弘安		7	4	4	
1284	弘安		7			
1284	弘安		7	7	7	
1285	弘安		8			
1285	弘安		8	11	17	
1286	弘安		9	9	3	
1287	弘安		10			関山慧玄，南浦紹明に就て得度する
1287	弘安		10			
1287	弘安		10	7	6	
1287	弘安		10	12	24	
1288	正応		1	1		
1289	正応		2			伏見天皇より万寿寺に寺産を賜う
1289	正応		2	4	25	
1289	正応		2	8	23	
1289	正応		2	9	7	
1289	正応		2	11	29	
1290	正応		3	2	11	

出来事 2

元・高麗の軍船博多に迫るも、大風雨により漂没する〈八幡愚童訓甲本〉(弘安の役)、
異国降伏の祈禱盛んに行われる

一遍ら、鎌倉小袋坂で北条時宗一行と出会う〈一遍上人絵伝〉
日蓮寂する61歳〈日蓮聖人註画讃〉

北条時宗、円覚寺を創建し、千体地藏を安置して、敵味方戦死者を供養し、無学祖応を
開山とする〈仏光禪師塔銘〉

夢窓、実阿について出家(僧名は智暎)
無住一円、『沙石集』を著わす
延暦寺衆徒、日吉・祇園等の神輿を奉じて、禁中に乱入する〈勘仲記〉

山徒、日吉神輿を破却する
北条時宗寂する34歳〈鎌倉年代記〉貞時執権と成る
《『三国遺事』成る》
北条貞時、執権と成る〈鎌倉年代記〉

この年、高野山伝法院僧徒、高野山を離れ根来寺に移住して、新義分立する〈帝王編年
記〉
執権北条貞時の内管領平頼綱、讒言して貞時の外祖父安達泰盛55・宗景父子を誅殺する。
ついで与党の後家人多数自害、金沢頭時は上総に流される〈保暦間記・鎌倉年代記〉(霜
月騒動)

無学祖元建長寺で寂する61歳〈仏光禪師塔銘〉

相摸靈山寺僧ら『伝法正宗記』印刻する〈刊記〉
良忠没する89歳(鎌倉光明寺を創建した)〈然阿上人伝〉
円覚寺、焼く〈鎌倉年代記〉

《世祖、江南の教禪律三宗の師に論議させる》

伏見天皇皇子胤仁親王(後伏見)、立太子〈公衡公記〉
一遍寂する51歳〈一遍上人絵伝〉
龜山上皇、出家する〈吉統記〉
大休正念寂する75歳〈元亨積書〉
後深草上皇、出家する〈増鏡〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齡

出来事 1

1291	正応	4				亀山法皇，禪林禪寺（後，南禅寺と改める）を開創し，離宮と定める。開山無関普門（大明国師）〈皇代記〉
1291	正応	4	12			
1291	正応	4	12	12		
1292	正応	5				虎関師錬，松下殿に参内する
1292	正応	5				妙超，書写山円教寺に登り，戒信律師に師事する〈大燈略年譜〉
1293	永仁	1	11			
1294	永仁	2				夢窓疎石，建仁寺の無隠円範に参ずる
1294	永仁	2				
1294	永仁	2	1			
1294	永仁	2	3	29		
1294	永仁	2	8	8		
1295	永仁	3				山叟慧雲，南禅寺に住する
1295	永仁	3				
1295	永仁	3				
1295	永仁	3				
1295	永仁	3				徹翁義亨生れる〈大燈略年譜〉
1295	永仁	3	9	14		天皇，内侍所に願文を捧げ，持明院統皇位継承の無事を祈る〈伏見宮御記録〉
1296	永仁	4				
1297	永仁	5	3	6		
1297	永仁	5	7	25	1	花園法皇生れる
1297	永仁	5	12	25	1	
1289	永仁	6				宗峰妙超，京都に出て禅匠を求める〈大燈略年譜〉
1298	永仁	6	2		2	古林清茂，天平山白雲寺の請を受ける
1298	永仁	6	10	13	2	
1299	正安	1			3	夢窓疎石，建長寺の一山一寧に参ずる
1299	正安	1	5		3	
1299	正安	1	5		3	
1299	正安	1	10	8	3	
1299	正安	1	12		3	

出来事 2

規庵祖円（南院国師）竜安山禪林寺（南禅寺）に住する
 無関普門寂する80歳（一説81）〈本朝高僧伝〉

南禅寺，仏殿成る

日像，京都で法華宗を弘布〈竜華秘書〉
 比叡山の大家，永く禅宗を停止すべしと訴える
 頼円，東大寺「華嚴海会善知識曼荼羅図」を描く〈裏書修理銘〉
 関白鷹司兼平寂する67歳〈一代要記〉

南禅寺僧堂成る（一説5年）
 徹通義介，瑩山紹瑾に伝法衣を与える
 義心，徳洪撰『禅林僧宝伝』を刊行する
 郭牽『寒山詩』刊行する

北条兼時寂する

永仁の徳政令〈東寺百合文集〉

白雲慧暁寂する75歳〈元亨釈書〉

心地覚心寂する92歳〈元亨釈書〉

鎌倉浄智寺を五山に列し，無象静照を住持とする〈法海禪師行状記〉
 西瀨子曇，一山一寧・石梁仁恭らを伴い再び日本へ向かう
 西瀨子曇・一山一寧，鎌倉に到着し，一寧，元の国書を幕府に呈する〈鎌倉年代記〉
 一山一寧，建長寺に住する

出来事 2

1300	正安	2	4	『碧巖録』再刊行される
1301	正安	3	5	宗峰妙超，建長寺の長老に謁する
1801	正安	3 8 22	5	
1301	正安	3 8 23	5	
1301	正安	3 8 24	5	後伏見上皇弟富仁親王（花園），立太子〈万一記〉
1302	乾元	1	6	
1302	乾元	1	6	
1302	乾元	1 5 6	6	
1302	乾元	1 10	6	
1303	嘉元	1	7	高峰顕日，鎌倉万寿寺に住し，夢窓初めて参ずる〈大燈略年譜〉
1303	嘉元	1 12	7	
1303	嘉元	1 12 15	7	御書始・御手習始の儀，テキストは『御注孝経』
1304	嘉元 秋	2	8	南浦紹明，後宇多上皇の詔により入洛。洛西に庵居。（後の龍翔寺とする）韜光庵に寓す。宗峰妙超，京の福光庵にて南浦紹明に謁する
1304	嘉元	2	8	宗峰妙超，京都万寿寺の高峰顕日に参じ，剃髪受具する。〈大燈略年譜〉
1304	嘉元	2	8	宗峰妙超，上洛して韜光庵にて南浦紹明に参ずる〈大燈略年譜〉
1304	嘉元	2	8	南浦紹明，京都万寿寺に住する
1304	嘉元	2 7 16	8	
1305	嘉元	3	9	後宇多上皇東山の故址を改め嘉元寺となし南浦紹明を開山とする
1305	嘉元	3	9	南浦紹明，京都万寿寺に入寺，開堂する。宗峰妙超はこれに従う〈大燈略年譜〉
1305	嘉元	3	9	
1305	嘉元	3 7 20	9	南浦紹明，万寿寺に住する
1305	嘉元	3 9 15	9	
1305	嘉元	3 10	9	高峰顕日，浄智寺に住する。夢窓疎石，所悟を呈して印可を受ける
1306	徳治	1 4	10	
1306	徳治	1 5	10	
1306	徳治	1 9	10	

出来事 2

北条師時を執権にする〈鎌倉年代記〉
北条貞時，出家する〈鎌倉年代記〉

一寧，円覚寺に入寺する
希運撰『伝心法要』再版する
「当麻曼荼羅図」（禅林寺）成る〈軸木銘〉
一山一寧，円覚寺に入寺する

無関普門に仏心禪師と号する

後深草法皇崩ずる62歳〈一代要記〉

興福寺の僧徒，片岡達磨寺と争いこれを焼く

龟山法皇崩ずる57歳〈一代要記〉

日本商船，元に赴き貿易を行う〈元史〉
浄智寺無象静照寂する73歳
建仁寺鏡堂覚円寂する63歳

40 花園法皇・日峰禅師関連年表

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢					出来事 1		
1306	徳治		1	11	10		
1307	徳治		2		11	関山，再び南浦紹明に相見し，慧眼という僧名を授けられる	
1307	徳治		2		11	宗峰妙超，関字を透得する	
1307	徳治		2		11	南浦紹明，鎌倉建長寺に入寺する〈大燈略年譜〉	
1307	徳治		2		11	宗峰妙超，雲門の関字で大悟，南浦より印可される〈大燈略年譜〉	
1307	徳治		2	7	26	11	
1307	徳治		2	9	15	11	
1307	徳治		2	12	29	11	南浦紹明，北条貞時の請により鎌倉，正観寺に寓し，のち建長寺に入る
1308	延慶		1		12	12	龍翔寺創始する
1308	延慶		1		12	12	南浦紹明に円通大応国師と賜諡する
1308	延慶		1		12	12	* 南浦紹明『大応国師法語』
1308	延慶		1	8	25	12	
1308	延慶	閏	1	8	26	12	花園天皇，踐祚・即位
1308	延慶		1	9	19	12	後宇多法皇皇子尊治親王（後醍醐），立太子。新将軍守邦王（久明親王男）を親王とする〈統史愚抄〉
1308	延慶		1	11	24	12	大嘗会屏風歌（悠紀方日野俊光，主基方九条隆教）〈増鏡〉
1308	延慶		1	12		12	円覚寺・建長寺を定額寺位に陞する
1308	延慶		1	12	29	12	南浦紹明（大応），建仁寺で寂する74歳〈本朝高僧伝〉
1309	延慶		2		13	13	御禊行幸・大嘗祭
1309	延慶		2		13	13	宗峰妙超，帛浴雲居庵に入寺する
1309	延慶		2	3	6	13	後宇多法皇の院宣により，宗峰妙超に円通大応国師の諡号を賜わる
1309	延慶		2	11	24	13	大嘗会屏風歌（悠紀方日野俊光，主基方九条隆教）〈増鏡〉
1310	延慶		3		14	14	この年から正慶元年（1322）まで，『花園院宸記』記される
1310	延慶		3	12	4	14	
1310	延慶		3	12	30	14	
1311	応長		1		15	15	花園天皇，御元服

出来事 2

建長寺西礪子曇寂する58歳

後宇多天皇，南禅寺を鎌倉五山に准ずる

後宇多上皇，出家する〈実躬卿記〉
嵯峨殿で亀山法皇の十祥聖諱を修する

後二条天皇崩ずる24歳〈一代要記〉

坊城俊定没する60歳〈花園院宸記〉
日吉社，閉籠放火により焼く〈花園院宸記〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢				出来事 1		
1311	応長	1		15		
1311	応長	1	5	4	15	花園天皇、連句を行う〈花園院宸記〉
1311	応長	1	5	5	15	内裏に詩歌会がある〈花園院宸記〉
1311	応長	1	9	22	15	
1311	応長	1	10	26	15	
1311	応長	1	12	26	15	円爾弁円に聖一国師号を贈る(国師号初例)〈東福寺文書〉
1312	正和	1			16	後宇多法皇、一山一寧を南禅寺に住させる
1312	正和	1			16	
1312	正和	1			16	
1312	正和	1	2	24	16	内裏に詩歌会がある〈花園院宸記〉
1312	正和	1	6		16	古林清茂、開元寺に再住する
1312	正和	1	12		16	伏見上皇、院領を処分する〈皇代記〉
1313	正和	2			17	
1313	正和	2			17	
1313	正和	2		春	17	春、妙葩、甲斐浄居寺で夢窓疎石に参ず。その後夢窓疎石、美濃虎溪山に入寺する
1313	正和	2			17	妙源等編『虚堂和尚語録』刊行する
1313	正和	2			17	宗峰妙超、『景德伝燈録』30巻を写す〈大燈略年譜〉
1313	正和	2	1	14	17	
1313	正和	2	2	3	17	伏見上皇、一条・後冷泉両天皇の御記を、花園天皇に進める〈花園院宸記〉
1313	正和	2	2	15	17	俊光・在輔と『帝範』を談義する
1313	正和	2	2	25	17	如円と法談
1313	正和	2	2	27	17	如円と法談
1313	正和	2	2	29	17	西大寺の如円が法文を読み、五戒を授ける
1313	正和	2	2	30	17	如円と法談
1313	正和	2	3	4	17	如円と法談
1313	正和	2	3	18	17	如円と法談
1313	正和	2	3	25	17	如円と法談
1313	正和	2	4	2	17	如円と法談
1313	正和	2	4	6	17	如円と法談
1313	正和	2	4	18	17	源資榮、花園天皇に唐絵杜甫像を献上する〈花園院宸記〉
1313	正和	2	4	25		
1313	正和	2	5		~17	『大鏡』を閲覧になる

出来事 2

凝然『三国仏法伝通縁起』を著わす

執権北条師時没する37歳〈鎌倉年代記〉

北条貞時没する41歳〈鎌倉年代記〉

興福寺大衆，輿を奉じて入浴する

高時執権となる

疎石，虎溪山に入寺する

日進，身延山に住する

加茂社で喧嘩があり，社司が刃傷に及ぶ〈花園院宸記〉

加茂祭当日，藤原光嗣，刃傷に及ぶ〈花園院宸記〉

44 花園法皇・日峰禅師関連年表

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢					出来事 1	
1313	正和		2	5 3	17	伏見上皇，天皇に蓮華王院藏の絵数合を贈る 〈花園院宸記〉
1313	正和		2	7 7	17	
1313	正和		2	8	17	
1313	正和		2	8	17	一山一寧，南禅寺に住する
1313	正和		2	10	17	天皇『文撰』を受講する
1313	正和		2	10 14	17	院政，後伏見
1313	正和		2	10 17	17	伏見上皇，出家（京極為兼らも出家）〈花園院 宸記〉
1313	正和		2	10 17	17	京極為兼，天皇に俊成自筆本『古今集』序を進 講する〈花園院宸記〉
1313	正和		2	12	17	宗峰妙超，祥雲庵に到り，庵主光を論破する〈大 燈略年譜〉
1314	正和		3	1	18	『群書治要』の講釈を受ける
1314	正和		3	2 14	18	
1314	正和		3	4 22	18	山叟慧雲に仏智禅師の諡号を与える〈花園院宸 記〉
1315	正和		4		19	宗峰妙超，洛北に草庵を窺む
1315	正和		4		19	宗峰妙超，洛北紫野に庵を結び，大徳と扁する
1315	正和		4	8 27	19	
1315	正和		4	12	19	古林清茂，饒州永福寺の請を受ける
1316	正和		5		20	花園天皇，宗峰妙超を召し問答し給う「王法不 思議与仏法対座」と奏答する
1316	正和		5		20	
1316	正和		5	10	20	
1317	文保		1			
1317	文保		1	1 3	21	
1317	文保		1	1 5	21	
1317	文保		1	1 27	21	内裏に続歌会がある〈花園院宸記〉
1317	文保		1	3	21	天皇『日本書紀』を閲覧になる
1317	文保		1	3 30	21	天皇，幕府使者上洛の間近いことを聞き，感慨 を記す〈花園院宸記〉
1317	文保		1	4 9	21	幕府，踐祚・立太子の事は持明院・大覚寺両統 で和談あるべしと申入れる〈花園院宸記〉（両 院迭立）
1317	文保		1	4 17	21	以前，幕府使者，西園寺実兼に，邦良親王・量

出来事 2

鷹司基忠没する67歳〈花園院宸記〉
遠溪祖雄，中峰明本の印記を受ける

尊勝寺・最勝寺，焼く〈花園院宸記〉

高梨高家没する73歳

金沢文庫を建つ
高峰顕日仏国国師寂する76歳〈皇代記〉

* 一山一寧『一山国師語録』
京都に大地震，数ヵ月続く〈花園院宸記〉
清水寺塔，焼く〈花園院宸記〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事1

					仁親王の順で東宮たるべしと伝う〈花園院宸記〉
1317	文保		1 5 15	21	内裏に連句五十韻がある〈花園院宸記〉
1317	文保		1 5 20	21	幕府使者、結論を得ず、京都を去る〈花園院宸記〉(文保の和談)
1317	文保		1 9 3	21	伏見法皇崩ずる53歳〈一代要記〉
1317	文保		1 10 24	21	
1318	文保		2	22	
1318	文保		2	22	
1318	文保		2 2 26	22	後醍醐天皇に譲位
1319	元応		1	23	花園上皇『資治通鑑』を読む
1319	元応		1	23	後醍醐天皇妙超と禅旨を商量する
1319	元応		1	23	赤松則村、宗峰妙超の為に紫野に小院を建てる(大徳寺の始まり)
1319	元応		1 1 19	23	東大寺八幡宮興、兵庫関の返還(法皇が大覚寺に寄進を図る)強訴のため入京する〈花園院宸記〉
1319	元応		1 4 18	23	
1319	元応		1 4 25	23	
1319	元応	閏	1 7 22	23	律令の講説を受ける
1319	元応		1 11 10	23	律令20巻読み合せ講説を受了する
1319	元応		1 11 15	23	
1320	元応		2	秋 24	冬にかけて、花園上皇御所に連歌・詩会が頻繁に行われる〈花園院宸記〉
1320	元応		2	24	
1320	元応		2	24	この年前後、花園上皇、日野資朝・妙暁上人と度々文談・法談をする〈花園院宸記〉
1320	元応		2 4 28	24	禅僧(妙暁か)参院する
1320	元応		2 4 28	24	夜、日野資朝により禅僧参院する(妙暁上人か)
1320	元応		2 5 19	24	
1320	元応		2 6 7	24	
1320	元応		2 8 4	24	為世撰『統千載和歌集』、完成して奏覧される〈花園院宸記〉
1320	元応		2 8 10	24	
1320	元応		2 10 5	24	
1320	元応		2 10 12	24	妙暁、参院する
1320	元応		2 10 12	24	花園上皇、道皎に禅要を諮問する

出来事2

一山一寧，南禅寺にて寂する71歳〈一山国師行記〉

明窓宗鑑寂する

師鍊懸山，古規選述する

園城寺衆徒，戒壇建立を呼号し，延暦寺衆徒，蜂起する〈花園院宸記〉

園城寺，焼払われる〈花園院宸記〉

談天門院忠子没する52歳〈花園院宸記〉

この年，赤斑瘡流行する〈花園院宸記〉

約翁徳儉寂する76歳〈本朝高僧伝〉

九条師教没する48歳〈花園院宸記〉

石清水社社頭で，閉籠の神人と武士が闘争する〈花園院宸記〉

延暦寺の訴えにより，檢非違使別当らを配流する〈花園院宸記〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事 1

1320	元応	2	10	24	24	道皎，参内して禅法を奏答する
1321	元亨	1			25	花園上皇，大徳寺に幸する
1321	元亨	1			25	
1321	元亨	1	1	20	25	花園上皇御所に歌合がある〈花園院宸記〉（この年前半，上皇御所に歌会・歌合・詩歌会などが頻繁にある）
1321	元亨	1	2		25	『古事記』『古語拾遺』を閲覧になる
1321	元亨	1	3		25	『孟子』を読む（3～4月）
1321	元亨	1	3	4	25	花園上皇，土佐隆兼に巨勢金岡筆「愛染王像」を写させる〈花園院宸記〉
1321	元亨	1	3	17	25	『荀子』を読む
1321	元亨	1	4	16	25	花園上皇，唯心の平治・平等の琵琶を聴く〈花園院宸記〉
1321	元亨	1	6	23	25	
1321	元亨	1	7	7	25	量仁親王，御所に連句がある〈花園院宸記〉
1321	元亨	1	8	19	25	妙暁上人，参院法談
1321	元亨	1	9	5	25	
1321	元亨	1	10		25	昼夜をとわず観法し『摩訶止観』の第2巻を読了する
1321	元亨	1	11	1	25	
1321	元亨	1	12		25	
1321	元亨	1	12	9	25	定房・日野俊光，関東から帰洛。院政を停止し，天皇親政とする〈花園院宸記〉
1321	元亨	1	12	11	25	妙暁，参院法談と碧巖録第1を読む
1321	元亨	1	12	14	25	妙暁を召し法談する
1321	元亨	1	12	25	25	妙暁（後の月林道皎）に受衣し給う
1321	元亨	1	12	25	25	妙暁，渡元参学のため明後日鎮西下向の意あって参院する
1322	元亨	2			26	この年以降数年間，花園上皇，御所に文事が頻繁にある
1322	元亨	2			26	
1322	元亨	2			春 26	月林道皎，入元し古林清茂に参ずる
1322	元亨	2			26	
1322	元亨	2			26	
1322	元亨	2	1	13	26	
1322	元亨	2	2	23	26	上皇『尚書』研究会を始める
1322	元亨	2	3	10	26	暁の夢に伝教・弘法の两大師に謁する

出来事 2

双峰宗源、南禅寺に住する

菅原在兼没する73歳〈花園院宸記〉

凝然寂する82歳〈本朝高僧伝〉

花山院師信没する48歳〈花園院宸記〉
院政廃止，天皇親政となる

後醍醐天皇，宝山に十種疑問を対旨せしむ

高麗慈氏山瑩源寺宝鑑国師混丘寂する72歳
《プトウン『仏教史』を著わす）
北畠師重没する53歳〈花園院宸記〉

西暦	北朝	閏	年	月	日	季	齢	出来事 1
1322	元亨		2	7			26	花園上皇禅道刷振を図る
1322	元亨		2	8			26	
1322	元亨		2	9			~26	『日本後紀』を閲覧になる
1322	元亨		2	9	10		26	
1322	元亨		2	10			26	『続日本後紀』『文徳実録』を閲覧になる
1322	元亨		2	12	27		26	妙暁, 入元して古林清茂に参ずる
1323	元亨		3			春	27	『礼記』の説を受ける
1323	元亨		3	5			27	妙超, 参内して花園上皇に禅要奏対
1323	元亨		3	5			27	
1323	元亨		3	5	23		27	宗峰妙超, 「宸記」に初見, 参院して法談する
1323	元亨		3	5	23		27	花園上皇, 妙超上人に逢い談話する
1323	元亨		3	6	16		27	
1323	元亨		3	6	26		27	花園上皇, 王法(武帝)と仏法(達磨)とを論ずる
1323	元亨		3	7	21		27	
1323	元亨		3	8			27	
1323	元亨		3	9	14		27	花園上皇, 法談する
1323	元亨		3	9	16		27	花園上皇, 法談する
1323	元亨		3	9	19		27	花園上皇, 妙超に参禅
1323	元亨		3	10			~27	花園上皇, 『三代実録』『本朝世紀』を閲覧になる
1323	元亨		3	10	4		27	
1323	元亨		3	10	18		27	花園上皇, 妙超と談話, 托鉢話, 下語を見せしむ
1323	元亨		3	10	18		27	
1323	元亨		3	11	1		27	花園上皇, 妙超と談和する
1323	元亨		3	11	6		27	
1323	元亨		3	11	20		27	花園上皇, 妙超と談和する
1323	元亨		3	12			27	
1323	元亨		3	12	5		27	
1323	元亨		3	12	10		27	花園上皇, 妙超と談和する
1323	元亨		3	12	14		27	宗卓と妙超と参院する
1323	元亨		3	12	20		27	宗峰妙超, 参院する
1324	正中		1				28	この年, 宗峰妙超, 大徳寺を創建する(竜宝山大徳寺史)
1324	正中		1				28	宗峰妙超, 興禅大燈国師号を賜う(一説延元2)

出来事 2

虎関師鍊, 『元亨釈書』進覧する

西園寺実兼没する74歳〈花園院宸記〉

鎌倉大地震

後醍醐天皇, 大内記日野俊基を藏人に抜擢する〈花園院宸記〉

後伏見上皇, 室町院領に関する永嘉院瑞子の訴えについて, 幕府に慎重な扱いを要請する(翌年3月9日幕府の返書到が, 不利な結果となる〈花園院宸記〉)
中峰明本寂する61歳

冷泉為相, 鎌倉に下る〈花園院宸記〉

覚雲法親王崩ずる〈花園院宸記〉

後醍醐天皇, 参議日野資朝を鎌倉へ派遣する〈花園院宸記〉

無関普門, 大明国師と諡される
京都大火, 50町を焼く〈花園院宸記〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齡

出来事 1

				年)
1324	正中	1		28 開山大師、靈感寺を創建する
1324	正中	1	1	28 後醍醐天皇、通翁鏡円・宗峰妙超らを召し、南都北嶺の宗匠と宗論を行わせる〈元亨宗論〉
1324	正中	1	2 6	28 妙超、参院する
1324	正中	1	3 8	28 『尚書』の会を終了する
1324	正中	1	3 27	28 『論語』の研究会を始める
1324	正中	1	5	28 大徳庵を大徳寺と勅号し給う
1324	正中	1	6 25	28
1324	正中	1	6 29	28 妙超、参院する
1324	正中	1	9 19	28
1324	正中	1	9 23	28
1324	正中	1	12	28 読書目録に内典（仏書）46部、外書（儒書）32部、本朝の書（国書）19部を挙げる
1324	正中	1	12	28 花園上皇、幸増に北野天神御影を描かせ、自らも夢想像を描く〈花園院宸記〉
1324	正中	1	12 11	28 『礼記』学習の業を終える
1324	正中	1	12 13	28 『毛詩』を学講を始める
1325	正中	2		29 この年、呑海、清浄光寺（遊行寺）を開く〈建長寺年代記〉
1325	正中	2		29
1325	正中	2		29
1325	正中	2		29
1325	正中	2		29 馮子振『古林清茂禅師語録』に序する
1325	正中	2		29 宗峰妙超、通翁鏡円と共に清涼殿にて、叡山の玄慧などと宗論し、相手を論破する〈大燈略年譜〉
1325	正中	2	1	29 義堂周信、土佐長岡に生れる
1325	正中	2	1	29 南禅寺通翁鏡円寂する68歳
1325	正中 閏	2	1 8	29 これより先、後伏見上皇、次の立太子のことで動静あり、この日、皇太子もまた使者を鎌倉に向ける〈花園院宸記〉
1325	正中 閏	2	1 28	29 禅林寺（南禅寺）長老鏡円寂する68歳
1325	正中	2	2	29 花園上皇、大徳寺に院宣を賜う
1325	正中	2	2	29 花園上皇、宗峰妙超より禅要を聞く
1325	正中	2	2	29 東福寺再建する
1325	正中	2	2 7	29
1325	正中	2	2 9	29 宗峰妙超参院、碧巖録を談ず

出来事 2

後宇多法皇崩ずる58歳〈皇代暦〉

六波羅，密告で討幕計画を知り，日野資朝・同俊基を捕える〈花園院宸記〉（正中の変）
万里小路宣房，釈明のため，勅使として鎌倉へ向う（10. 22掃洛）〈花園院宸記〉

慧鎮，坂本西教寺を円頓戒の本寺として再興する〈天台霞標〉

『統拾遺』成る

『玄沙広録』重刊される

幕府使者上京，資朝の佐渡配流と俊基の放免を伝える〈花園院宸記〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢					出来事 1		
1325	正中		2	2	23	29	宗峰妙超，参院する
1325	正中		2	5	29	29	宗峰妙超と法談する
1325	正中		2	6	17	29	上皇易の疏を読む
1325	正中		2	6	26	29	
1325	正中		2	7		29	花園上皇妙超より禅要を聞く
1325	正中		2	7		29	
1325	正中		2	7	1	29	後醍醐天皇，大徳寺を祈願所とする〈大徳寺文書〉
1325	正中		2	7	17	29	花園上皇，妙超と法談する
1325	正中		2	8		29	夢窓疎石，南禅寺住持となる〈夢窓国師年譜〉
1325	正中		2	8		29	夢窓疎石，勅により入内して説法する
1325	正中		2	8	15	29	
1325	正中		2	8	24	29	花園上皇，宗峰妙超と法談する
1325	正中		2	9		29	後伏見上皇，宸筆般若心経を熱田社に納め，量仁親王の立太子を祈る〈伏見宮記録〉
1325	正中		2	9		29	
1325	正中		2	10	2	29	花園上皇，宗峰妙超より禅林寺長老（夢窓国師）の内裏での問答を聞き批評を加える
1325	正中		2	10	2	29	
1325	正中		2	10	10	29	宗峰妙超，参院する
1325	正中		2	12	18	29	二条為定撰『統後拾遺和歌集』奏覧される（四季部）〈花園院宸記〉
1326	嘉暦		1			30	無因生れる
1326	嘉暦		1			30	宗印，宗峰妙超の為に伽藍造営
1326	嘉暦		1			30	大徳寺の法堂落成する〈大燈略年譜〉
1326	嘉暦		1	3	13	30	
1326	嘉暦		1	7	24	30	後伏見上皇皇子量仁親王（光厳），立太子〈皇代暦〉
1326	嘉暦		1	7	26	30	
1326	嘉暦		1	12	8	30	宗峰妙超，大徳寺開堂の式典を行う
1327	嘉暦		2			31	開山，建長寺に大覚禅師50回忌に列する
1327	嘉暦		2			31	
1327	嘉暦		2	10		31	花園上皇，宗峰妙超と法談し給う
1328	嘉暦		3			32	道皎，元朝文宗帝より仏慧智鑑大師号を受ける
1328	嘉暦		3	6	3	32	後伏見上皇，量仁親王の登祚を日吉社に祈る〈伏見宮御記録〉

出来事 2

京都に大雷洪水，死者500人〈花園院宸記〉

幕府，建長寺船を元に遣わす

瑩山紹瑾寂する58歳〈本朝高僧伝〉

正中の変が起る

一条内経没する35歳〈花園院宸記〉

北条高時，病により出家，崇鑑と号する。ついで，金沢貞顕（就任10日間）をへて北条守時が最後の執権になる〈将軍執権次第〉

工藤祐貞，安藤季長を捕え，鎌倉に帰る〈鎌倉年代記〉

慧日聖光，国泰寺を創す

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢					出来事 1	
1328	嘉暦	3	9	4	32	後伏見上皇、量仁親王の登祚を加茂社に祈る〈伏見宮御記録〉
1328	嘉暦	3	11	21	32	後伏見上皇、量仁親王の登祚を石清水社をはじめ諸社に祈る〈伏見宮御記録〉
1329	元徳	1			仲春 33	関山慧玄（開山大師）、関字に透徹する
1329	元徳	1			33	
1329	元徳	1			33	宗峰妙超、慧眼に「関山」の号を授け、慧玄に改めさす
1329	元徳	1	1		33	中峰明本、知覚禪師と謚さる
1329	元徳	1	2		33	宗峰妙超、墨跡「関山」字条（国宝、妙心寺）成る〈年紀〉
1329	元徳	1	2		33	宗峰妙超、慧眼を印可し慧玄に改めさせ、関山の号を授ける
1329	元徳	1	6		33	
1329	元徳	1	8		33	北条高時、疎石を円覚寺住持とする
1328	元徳	1	11		33	古林清茂寂する68歳
1329	元徳	1	12	28	33	皇太子量仁親王、元服〈資名御記〉
1330	元徳	2			34	『誠太子書』成る
1330	元徳	2			34	関山慧玄、宗峰妙超より印状を受く
1330	元徳	2			34	道皎帰朝する
1330	元徳	2			34	日本の中巖円月、百丈山の記室となる
1330	元徳	2			34	宗峰妙超、但州祐徳寺の開山となる。法語は「大徳寺語録」にみられる〈大燈略年譜〉
1330	元徳	2			34	
1330	元徳	2	1		34	関山慧玄、宗峰妙超に代って叡問に答える
1330	元徳	2	2		34	花園上皇、（甥に当る）皇太子量仁親王に、『誠太子書』を贈る〈花園院宸記〉
1330	元徳	2	2		34	
1330	元徳	2	5		34	関山慧玄、伊深に韜晦する
1330	元徳	2	5		34	宗峰妙超、関山慧玄に印可法語を与える
1330	元徳	2	9		34	
1330	元徳	2	9		34	夢窓疎石、甲斐恵林寺を開く
1331	元徳	3			(元弘)35	六波羅北方に幸する
1331	元徳	3			35	宗峰妙超、横岳山崇福寺に入寺、百日にて退山する〈大燈略年譜〉
1331	元徳	3	8		35	

出来事 2

この年、鎌倉大仏の造営科船を元に派遣する

元僧明極楚俊・竺仙梵僊ら、来日し、楚俊、天皇に謁して、仏日焰慧禅師の号を受ける
〈和漢合符〉

1336年にかけて、兼好『徒然草』を著す

北条高時、楚俊を建長寺住持とする

この年、二階堂貞藤、甲斐恵林寺を創建し、夢窓疎石を開山とする 〈夢窓国師年譜〉

元弘の変

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齡

出来事 1

1331	元徳	3	8	24	27	35	
1331	元徳	3	9	28	29	35	
1331	元徳	3	10	6		35	六波羅より、神器を光厳天皇に渡す〈花園院宸記別記〉
1331	元徳	3	10	7		35	
1331	元徳	3	10	21		35	
1332	正慶	1				36	
1332	正慶	1				36	
1332	正慶	1				36	師錬『元亨釈書』を光厳院に上り、入蔵を請うも許されず
1332	正慶	1				36	中厳円月、元より帰国する
1332	正慶	1				36	円月『原民』『原僧』を草し、天皇に奉る
1332	正慶	1				36	宗峰妙超、「三転語」を作り学人を勘驗し、又「示衆法語」を作る〈大燈略年譜〉
1332	正慶	1	3	7		36	
1332	正慶	1	3	21		36	
1332	正慶	1	4	10		36	
1332	正慶	1	4	13		36	
1332	正慶	1	6	6		36	
1332	正慶	1	7			36	南禅寺元翁本元寂する51歳
1332	正慶	1	8			36	東福寺天桂宗晃寂する
1332	正慶	1	9			36	虎関師錬、東福寺に住する
1333	正慶	2				37	六波羅北方に幸し、伊吹大平護国寺に入り、京都に還幸する
1333	正慶	2				37	
1333	正慶	2				37	大徳寺を本朝無双の禅苑とする
1333	正慶	2				37	
1333	正慶	2				37	後醍醐天皇が、還京する〈大燈略年譜〉
1333	正慶	2				37	後醍醐天皇より、大徳寺を本朝無双の禅苑とするという宸翰を賜う〈大燈略年譜〉
1333	正慶	2	5			37	
1333	正慶	2	5			37	六波羅陥落する
1333	正慶	2	6	26		37	後伏見上皇、出家する〈皇代暦〉
1333	正慶	2	8	24		37	後醍醐天皇、宗峰妙超に置文（国宝大徳寺蔵）を与える〈年紀〉
1333	正慶	2	10	1		37	大徳寺、五山に列せられる〈年紀〉
1333	正慶	2	11			37	

出来事 2

後醍醐天皇，神器を奉じて都を落ち，山城笠置寺に入る（～27日）〈増鏡〉
幕府軍，笠置を陥落させ，後醍醐天皇を捕える〈資料総覧〉

法成寺・無量寿院，焼く〈花園宸記〉
楠木正成の赤坂城が陥落する〈鎌倉年代記〉

詔を以て京都万寿寺内に報恩精舎を建てる詔を以て京都万寿寺内に報恩精舎を建てる
楠木正成千早築城する

幕府，後醍醐天皇を隠岐に，尊良親王を土佐に，尊澄法親王を讃岐に流す〈武家年代記〉
京極為兼没する79歳〈花園宸記〉
幕府，討幕参与の公卿・僧らの処分を決める〈花園宸記〉
延暦寺，焼く〈花園宸記〉
以前，尊雲法親王，熊野山に令旨を伝える〈花園宸記〉

疎石，臨川寺に住する

足利尊氏，挙兵する〈大燈略年譜〉

北条高時没する31歳。鎌倉幕府滅亡

中巖円月，『原民』『原僧』二論を撰し，時弊を論ずる

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢					出来事 1	
1334	建武	1			38	無因建仁の可翁に就て薙髮する
1334	建武	1			38	この年、宗峰妙超墨跡「看読真詮榜」（看経榜、国宝、真珠庵）成るか
1334	建武	1			38	建武の中興なる〈大燈略年譜〉
1334	建武	1			38	天皇は、大徳寺を南禅寺とならばしめ、五山第一とする〈大燈略年譜〉
1334	建武	1	1		38	『中峰広録』を入蔵し、中峰明本に普応国師と謚される
1334	建武	1	1	26	38	五山制定、南禅寺を五山の第1とする〈諸五山十刹住持簿〉
1334	建武	1	10		38	夢窓疎石、南禅寺に再住する
1334	建武	1	10	5	38	藤原藤房、寂する
1334	建武	1	11	15	38	
1334	建武	1	12		38	「大灯国師（宗峰妙超）像」（国宝、大徳寺）描かれる〈自賛〉
1335	建武	2			39	
1335	建武	2			39	
1335	建武				秋 冬 39	
1335	建武	2			39	宗峰妙超、「遺誡」を作る〈大燈略年譜〉
1335	建武	2	4		39	虎関師錬、僧徒の服色の改正（後醍醐天皇が夢窓疎石に諮問）について諫める〈虎関和尚紀年録〉
1335	建武	2	7	23	39	
1335	建武	2	8	19	39	
1335	建武	2	10		39	
1335	建武	2	11	18	39	
1335	建武	2	11	19	39	
1335	建武	2	11	22	39	天台の円観慧鎮僧都について、花園上皇御落飾（法名は遍行）、出家する〈皇年代略記〉
1335	建武	2	12	13	39	
1335	建武	2	12	22	39	
1336	建武	3	1		(延元)40	中興の業破れ、天皇は吉野に遷幸。南北朝に分裂する〈大燈略年譜〉
1336	建武	3	4	6	40	
1336	建武	3	5	25	40	

出来事 2

護良親王（前月逮捕），鎌倉へ流される〈元弘日記裏書〉

足利尊氏，謀反する
直義，護良王を弑す
尊氏，鎌倉で専断する〈太平記〉

高時の子北条時行の鎌倉侵攻により，足利直義，護良親王28歳を殺し，西走する〈梅松論〉（中先代の乱）
足利尊氏軍，北条軍を破り鎌倉に入る〈鎌倉大日記〉
後醍醐天皇，臨川寺を勅願寺とし，夢窓疎石を開山に請し，国師号を特賜する
尊氏，新田義貞追討を請い，その奏状京に着く〈元弘日記裏書〉
朝廷，尊氏・直義追討軍を派遣する〈元弘日記裏書〉

足利軍，尊良親王・新田義貞を伊豆に破り，ついで西上する〈太平記〉
北畠顯家，足利軍追撃のため陸奥進発〈八戸系図〉

後伏見法皇崩ずる49歳〈皇代曆〉
足利軍，兵庫湊川で大勝。楠木正成戦死する〈梅松論〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢				出来事 1	
1336	建武	3	5 29	40	尊氏入京，光厳上皇を治天の君とする〈元弘日記裏書〉
1336	建武	3	6 30	40	
1336	建武	3	8	40	北朝光厳天皇の院宣により，後伏見法皇の第二皇子光明天皇が踐詐する。足利尊氏，征夷大將軍となる
1336	建武	3	9 21	40	光厳上皇，臨川寺の疎石に夢窓国師の号を安堵し，同寺を諸山随一として本朝の安全を祈らせ，加茂大野荘等を領させる〈天竜寺文書〉（前年10. 11夢窓国師号，初見〈臨川寺重書案文〉）
1336	建武	3	11	40	
1336	建武	3	11 7	40	
1336	建武	3	12 21	40	
1337	建武	4		41	宗峰妙超『大灯国師法語』
1337	建武	4		41	宗峰妙超，「正法山・妙心寺」を定める。関山慧玄，伊深より上洛。妙心寺，開創する
1337	建武	4		41	宗峰妙超，興禅大燈国師号を賜う（一説正中元年）
1337	建武	4		41	花園の離宮を妙心寺とし，宗峰妙超の推薦で関山慧玄を請する
1337	建武	4		41	宗峰妙超，大徳寺の一切に関して徹翁にゆずる〈大燈略年譜〉
1337	建武	4		41	宗峰妙超，花園法皇より大徳寺一流相承の宸翰を賜う〈大燈略年譜〉
1337	建武	4		41	花園法皇のご意志により一寺開創の寺号を宗峰妙超により「正法山妙心寺」と定めることとなる。開山は伊深より上洛
1337	建武	4	8 26	41	大徳寺に宗峰妙超の門流に相承せしめらる
1337	建武	4	12	41	徹翁義亨，大徳寺に住する
1337	建武	4	12 22	41	宗峰妙超（興禅大燈国師）寂する56歳〈大灯国師語録〉
1338	暦応	1		42	法皇玉鳳院を創し給う
1338	暦応	1		42	藤房，関山大師に妙心寺にて謁する
1338	暦応	1	3 26	42	徹翁，大徳寺に住する
1338	暦応	1	8 11	42	

出来事 2

洛中合戦，名和長年戦死する〈梅松論〉

『建武式目』17ヶ条成る

これより先，尊氏，幕府立地・政道17ヶ条（『建武式目』）につき是円・真恵ら8名に諮問，この日，答申を受ける〈勘例雑々〉（室町幕府の成立，一説）

後醍醐上皇（尊氏側の扱い），神器を奉じて吉野に潜行する〈皇代略記・神皇正統記〉（南北朝となる）

北朝，夷東將軍足利尊氏を征夷大將軍にする〈公卿補任〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢				出来事 1		
1338	暦応	1	9	42	豪信、「花園天皇像」(国宝、長福寺)を描く〈花園天皇記文〉	
1339	暦応	2	1	13	43	道敏、長福寺に住する
1339	暦応	2	4		43	西方寺を西芳寺として禅寺に改め、夢窓疎石、中興開山となる
1339	暦応	2	4	17	43	宗峰妙超、高照の諡号を賜う
1339	暦応	2	8		43	
1339	暦応	2	8	16	43	
1339	暦応	2	10		43	
1339	暦応	2	10	5	43	
1339	暦応	2	11		43	
1340	暦応	3		(興国)44	44	この頃萩原御所(花園の地)に遷られる
1340	暦応	3	7		44	
1340	暦応	3	9	8	44	花園法皇、宣光門院と仁和寺真光院で替者の演奏(平曲か)を聞く〈中院一品記〉
1341	暦応	4			45	
1341	暦応	4	4		45	
1341	暦応	4	4		45	
1341	暦応	4	12		45	
1342	康永	1			46	無因、得度する
1342	康永	1	1		46	花園法皇、関山慧玄に仁和寺花園の御所跡を賜い禅苑とす(後、妙心寺となる)
1342	康永	1	1	29	46	光明院より、仁和寺花園御所跡を関山慧玄に賜う
1342	康永	1	4		46	光厳天皇、西芳寺で受衣される
1342	康永	1	4	23	46	幕府五山十刹の序列を定める〈扶桑五山記〉
1342	康永	1	9		46	
1342	康永	1	11	12	46	法皇御領を処分し給う
1342	康永	1	11	12	46	開山仁和寺上庄地頭職を仰附らる
1342	康永	1	12		46	
1343	康永	2			47	この年『院六首歌合』(花園法皇催行)成る
1343	康永	2			47	
1343	康永	2			47	無文元選、入元する
1343	康永	2	3	20	47	光明院知行の論旨を雲山に賜う

出来事 2

虎関師錬，南禅寺開山塔を建立する

後醍醐天皇崩ずる52歳〈神皇正統記・中院一品記〉

足利尊氏，亀山法皇の故院を寺とし，暦応資聖禅寺（後の天竜寺）と号し夢窓疎石を開山に請する

足利尊氏・直義の奏請により，光厳上皇，後醍醐天皇追善のため，暦応寺（のちの天竜寺と改称）を開く〈天竜寺造営記録〉

尊氏，南禅寺に千僧供養する

暦応寺を天竜寺と改む

春屋，臨川寺で『円悟心要』を刻する（五山版のはじめ）

幕府，十刹の制定する

竺仙，南禅寺に住する

天竜寺船を元に派遣する

夢窓疎石『夢中間答集』刊行される〈跋〉

天竜寺，法堂上棟する

東陽徳輝重編『勅修百丈清規』成る

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事1

1344	康永	3		48	
1344	康永	3		48	光厳上皇，天竜寺へ臨行する
1344	康永	3		48	
1344	康永	3		48	丹波高源寺遺溪祖雄寂する
1344	康永	3	6	48	
1344	康永	3	10	48	10～11月，光厳上皇，勅撰集（『風雅和歌集』）撰集を準備する〈園太暦〉
1344	康永	3	10	48	
1345	貞和	1		(白鹿)49	
1345	貞和	1	2 13	49	開山に光明院知行の論旨賜う
1345	貞和	1	4 8	49	
1345	貞和	1	8	49	
1345	貞和	1	8 14	49	
1345	貞和	1	8 27	49	
1345	貞和	1	12 3	49	長福寺に備中国（岡山県）車庄を寄附する
1346	貞和	2		(正平)50	長福寺に幸する
1346	貞和	2	7 24	50	
1346	貞和	2	11 9	50	光厳上皇撰『風雅和歌集』和漢序・春部成り，竟宴が行われる〈園太暦〉
1346	貞和	2	11 26	50	
1346	貞和	2	12 23	50	長福寺に御幸一夜逗留，寺内歴覧する
1347	貞和	3		51	
1347	貞和	3	2	51	花園法皇，天竜寺へ臨幸する
1347	貞和	3	7 22	51	花園法皇，関山慧玄に『往年の宸翰』（妙心寺の造営を附属せらる）を賜う
1347	貞和	3	7 29	51	玉鳳院を慧玄の門流に相承せしめらる宸翰を賜る（玉鳳院宸翰）
1348	貞和	4		52	花園法皇『花園院御集』
1348	貞和	4		52	
1348	貞和	4		52	
1348	貞和	4		52	
1348	貞和	4	7 16	52	
1348	貞和	4	10 27	52	崇光天皇即位する（院政・光厳上皇）
1348	貞和	4	11 11	52	花園法皇崩じる52歳〈園太暦〉
1349	貞和	5		52	
1349	貞和	5	1	52	希叟紹曇撰『五家正宗贊』刊行する

出来事 2

国泰寺に紫衣地位を許さる

河内観心寺，焼く

楠木正行の奏請により河内観心寺再建する

大高重成『夢中問答』を開版する

国毎に建立する寺塔を安国寺・利生塔と名づける

天竜寺に法堂をひらく

光厳上皇，延暦寺徒の強訴により天竜寺供養に臨むことを中止する

尊氏，夢窓に寺檀を契う

夢窓に，金襴紫衣を賜う

虎関師錬寂する69歳〈虎関紀年録〉

光明天皇，夢窓疎石に正覚国師の号を与える〈夢窓国師年譜〉

梵遷，建長寺に住する

尾張妙興寺建つ

正行，北軍を破る

道原撰『景德伝燈録』建仁寺で刊行する

竺仙梵僊寂する57歳〈竺仙録〉

正行，高師直と河内四条畷に戦い敗死する

西暦	北朝	閏	年	月	日	季	齢	出来事 1
1349	貞和		5	3			52	
1350	観応		1					光嚴上皇，長福寺を勅願所とする
1350	観応		1					光明，光嚴，夢窓より十牛図提唱を聞く
1350	観応		1					
1350	観応		1	2				
1350	観応		1	10	26			
1350	観応		1	10	28			
1350	観応		1	12	13			
1351	観応		2					
1351	観応		2					
1351	観応		2					
1351	観応		2	1	16			
1351	観応		2	2	25			山城長福寺月林道皎寂する59歳〈長福寺寺記〉
1351	観応		2	8	22			崇光院より，関山慧玄，妙心寺再住の綸旨を賜う
1351	観応		2	9	30			天竜寺夢窓疎石寂する77歳〈園太暦〉
1351	観応		2	12	28			光明上皇，出家する。藤原廉子，新待賢門院の院号を受ける〈園太暦〉
1352	文和		1					
1352	文和		1	2	26			
1352	文和		1	9				
1353	文和		2					
1353	文和		2					
1354	文和		3					
1354	文和		3	1				
1354	文和		3	4	17			
1355	文和		4					
1356	延文		1					授翁，本有円成の話に徹する
1357	延文		2					
1357	延文		2	3				月林道皎，普光大幢国師号を勅諡する
1358	延文		3					天皇，観心寺に遷幸する
1358	延文		3					
1358	延文		3					
1358	延文		3					

出来事 2

義直義詮等、夢窓より受戒する

直義降服する

両太上皇が受衣される

足利直義、京都を脱出し大和へ赴く〈園太暦〉

足利尊氏、直冬追討のため、高師直らを率いて京を発つ〈園太暦〉〈観応の変〉

南朝、直義の帰服を許す〈観応二年日記〉

周及、帰朝する

妙葩、契嵩撰『輔教編』刊行する

《紅巾の賊（白蓮教徒）の反乱起こる》

直義の軍勢京都を制し、尊氏・義詮敗走播磨におち、市中に戦乱〈園太暦〉

正忠没する、義興鎌倉を取る

直義47歳、尊氏に殺される

尊氏『大般若経600巻』を開版する

妙葩『夢窓国師年譜』『西山夜話』などを撰す

『禅院条目』制定する

尊氏、後醍醐天皇以下、元弘以来の戦没者の冥福を祈り一切経を写経する

北畠親房没する62歳〈常楽記〉

義詮、『大般若経』を刻する

疎石、普济国師加号を賜る

妙葩、圭峰宗密撰『禅源諸詮集都序』刊行する

『景德伝燈録』重刊される

70 花園法皇・日峰禪師関連年表

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事 1

1358	延文	3					
1358	延文	3	1	4			
1358	延文	3	4	30			
1358	延文	3	9				万寿寺，五山の列に入る〈夢窓録考証〉
1358	延文	3	9				
1358	延文	3	10				
1358	延文	3	11				
1359	延文	4					
1359	延文	4					
1360	延文	5					無因，授翁に参ずる
1360	延文	5	12	12			関山慧玄（本有円成国師，無相大師）寂する84歳〈正法山六祖伝〉
1361	康安	1					授翁，妙心寺に住する
1361	康安	1					
1361	康安	1	1	18			
1361	康安	1	10	27			
1361	康安	1	11				
1362	貞治	1					
1362	貞治	1					
1362	貞治	1	12	25			授翁，萩原宮知行の令旨を受ける
1363	貞治	2	11	8			
1364	貞治	3					無因，建仁寺より花園に移り専ら参究に勉む
1364	貞治	3					
1364	貞治	3					
1364	貞治	3	10	10			
1365	貞治	4					
1365	貞治	4					
1365	貞治	4	5	6			
1366	貞治	5	5	21			授翁，萩原宮知行の綸旨を受ける
1366	貞治	5	7				光嚴上皇，常照寺にて崩ずる52歳
1367	貞治	6	6				
1368	応安	1			1		日峰生れる
1368	応安	1	2		1		この年，絶海中津ら，入明する〈本朝高僧伝〉
1368	応安	1			1		

出来事 2

曇希『永平元禪師語録』を刊行する
 天竜寺, 焼く〈園太歴〉
 足利尊氏寂する54歳〈愚管記〉

夢窓疎石, 普濟国師と諍さる
 南禅寺無隠源晦寂する
 南禅寺竜山徳見寂する75歳

妙葩, 大訴撰『蒲室集』刊行する

希杲撰『諸偈類要』臨川寺で刊行する
 佐々木氏頼, 近江に寂室元光を招き, ついで永源寺を創建する〈寂室録〉
 臨川寺, 焼く〈柳原家記録〉
 春屋妙葩, 臨川寺に住する

祖元, 円満常照国師号を賜る
 顕日, 仏国応供広済国師号を賜る

春屋妙葩, 天竜寺住持となり入寺する〈智覚普明国師語録〉

時氏義長反する
 南陽慧忠撰『般若心経注疏』刊行する
 別源円旨没する71歳〈東海一漚別集〉

慧逸等編『夢窓国師語録』刊行する
 妙葩編『夢窓国師年譜』刊行する
 東陵永瑛寂する〈扶桑五山記〉

南禅寺の楼門造営の事で, 三井寺の僧徒強訴する

南禅寺, 造営する

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齡					出来事 1	
1368	応安		1		1	
1368	応安		1		1	
1368	応安		1	2	13	1 幕府，諸山禅院の住持入寺に関する禁制 5 条を定める〈建武以来追加〉
1368	応安		1	3		1
1368	応安		1	3	11	1
1368	応安		1	7	26	1
1368	応安		1	8		1
1368	応安		1	9		1
1368	応安		1	10		1 五山十刹の住院年数規定する
1368	応安		1	11	27	1 北朝，定山祖禅を配流（昨年11月山徒南禅寺山門を毀却しようとする）する〈統正法論付録〉
1369	応安		2			2
1369	応安		2	4	20	2 延暦寺衆徒，神輿を奉じて入京する〈後愚昧記〉
1369	応安		2	5	15	2 大徳寺，徹翁寂する75歳
1369	応安		2	7	28	2 幕府，延暦寺衆徒の強訴に屈し，南禅寺楼門を破壊する〈愚管記〉
1369	応安		2	8	7	2 京都禅寺の長老・両班，悉く退引する〈愚管記〉
1370	応安		3		(建徳) 3	細川頼元，永沢寺を建てる
1371	応安		4			4
1371	応安		4			4 妙葩，延寿撰『宗鏡録』刊行する
1371	応安		4	1	22	4 幕府，禅寺住持職の選補につき禁令を出す〈建武以来追加〉
1371	応安		4	3		4 無因授翁より印状を受ける
1371	応安		4	9		4 懐良親王の使僧祖来，明に至り表箋を呈し，被虜明人70余名を返す〈大明太祖実録〉
1371	応安		4	10	3	4 雲山萩原宮知行の令旨を賜う
1371	応安		4	10	15	4 上杉能憲，鎌倉に報恩寺を開き，義堂周信を住持とする〈空華日用工夫略集〉
1371	応安		4	11		4
1371	応安		4	11	21	4 以前，春屋妙葩とその門弟，管領細川頼之を疎み，京都を退く〈愚管記〉
1372	応安		5		(文中) 5	
1372	応安		5			5 宗興，祖照等編『円通大応国師語録』刊行する
1372	応安		5			5

出来事 2

義詮没する38歳

朱元璋、明を建国する（～1644）

天竜寺、焼く

後村上天皇41歳、摂津住吉行宮に崩ずる〈観心寺文書・石清水文書〉

北朝、定山祖禅の『統正法論』に反発し南禅寺破壊を呼号する延暦寺衆徒を慰撫する〈山門嗷訴記〉

山徒嗷訴する

寂室元光寂する

この年、明の洪武帝、征西將軍懷良親王に和寇の禁圧を要求する

五山十刹以下住持職の定を定める

春屋妙葩、細川頼之との抗争に敗れ、天竜寺雲居庵に退居する

疎石に玄猷国師号を賜う

北朝、永平寺に「日本曹洞第一道場」の勅額を賜う

74 花園法皇・日峰禪師関連年表

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事1

1372	応安	5			5	
1372	応安	5	2	9	5	幕府，禪寺住持入院の証明白槌一人たる制を改めて，諸寺長老を招請するを許す〈建武以来追加〉
1372	応安	5	4		5	
1372	応安	5	4	15	5	幕府，禪寺の両班改補・僧定数につき定める〈建武以来追加〉
1373	応安	6			6	
1373	応安	6	9	3	6	雲山後光巖院知行の院宣を賜う
1373	応安	6	9	28	6	天竜寺，焼く〈愚管記〉
1373	応安	6	10	9	6	幕府，鎌倉五山の住持職・入院年紀等について定める〈建武以来追加〉
1374	応安	7			7	
1374	応安	7	1	24	7	
1374	応安	7	1	29	7	
1374	応安	7	11	23	7	
1374	応安	7	12	17	7	
1375	永和	1			(天授) 8	
1375	永和	1			8	日峰，岳雲に就て薙髮する
1375	永和	1			8	
1375	永和	1			8	
1375	永和	1	1	8	8	
1375	永和	1	7	5	8	雲山，後円融院知行の繪旨を賜う
1376	永和	2			9	日峰，岳雲の弟子となる（於本源庵）
1376	永和	2			9	
1376	永和	2	1		9	
1377	永和	3			10	
1377	永和	3			10	
1377	永和	3	1	12	10	
1377	永和	3	2		10	
1377	永和 閏	3	7	4	10	
1377	永和	3	8	10	10	
1377	永和	3	8	20	10	
1377	永和	3	9	8	10	
1378	永和	4			11	
1378	永和	4	2		11	

出来事2

明版大藏經（南藏）刊行始まる

禅院の法則制定する

この年、椿庭海寿、明より帰国する〈本朝高僧伝〉

この年、足利義満、今熊野社で観阿弥・世阿弥の神事猿楽を見る〈申楽談儀〉

古先印元寂する80歳〈古先和尚行状〉

後光厳上皇、崩ずる37歳〈花營三代記〉

円覚寺、焼く

天竺人（楠葉西忍父）が京都に来て、義満に召される〈大乘院日記目録〉

* 中巖円月『東海一漚集』『一漚余滴』

円月に仏種慧濟禪師号を賜う

平林寺（武蔵）建立する

中巖円月寂する76歳〈空華日用工夫略集〉

この年、絶海中津、明より帰国する〈本朝高僧伝〉

日本の絶海中津、太祖帝に謁する

武頼・義弘戦死する

師鍊撰『元亨釈書』刊行する

此山妙在寂する82歳〈諸五山十刹住持籍〉

安祥寺五大虚空蔵、東大寺観智院に移される〈銘〉

在庵普在寂する80歳〈諸五山十刹住持籍〉

幕府、臨川寺を五山に列する〈花營三代記〉

大拙祖能寂する65歳〈延宝伝灯録〉

等持寺を十刹の第一とする〈花營三代記〉

宮室町花亭栄える

終海中津・汝霖良佐、明より帰国する

西暦	北朝	閏	年	月	日	季	齢	出来事 1
1378	永和		4	3	10		11	
1378	永和		4	3	20		11	授翁後円融院知行の繪旨を賜う
1378	永和		4	5	14		11	
1378	永和		4	11	18		11	
1378	永和		4	11	30		11	
1379	康暦	閏	1	4	23		12	
1379	康暦		1	10			12	
1379	康暦		1	10	10		12	
1379	康暦		1	12	28		12	北朝、妙葩に智覚普明国師の号を与える〈鹿王院文書〉
1380	康暦		2				12	後円融天皇の繪旨
1380	康暦		2				13	
1380	康暦		2				13	
1380	康暦		2				13	足利義満、春屋妙葩を僧録に任ず
1380	康暦		2	3	28		13	授翁宗弼（円鑑国師、微妙大師）寂する85歳
1380	康暦		2	4	4		13	
1380	康暦		2	6	24		13	
1381	永徳		1			(弘和)	14	無因、妙心寺に住する
1381	永徳		1				14	無因、開堂する
1381	永徳		1				14	
1381	永徳		1				14	
1381	永徳		1	2	15		14	
1381	永徳		1	10	7		14	
1381	永徳		1	11	18		14	
1381	永徳		1	12	12		14	
1382	永徳		2				15	日峰沙弥となる（雲居庵）
1382	永徳		2				15	
1382	永徳		2				15	
1382	永徳	閏	2	1	24		15	
1382	永徳	閏	2	1	26		15	
1382	永徳		2	3			15	義堂周信、南禅寺に住する
1382	永徳		2	7			15	尾張妙興寺滅宗宗興寂する73歳
1382	永徳		2	8			15	

出来事 2

足利義満、室町新弟（花の御所）に移る〈後愚昧記〉

大光明寺妙快・南禅寺通徹ら、臨川寺の列五山を拒み、十利に復することを請う〈空華日用工夫略集〉

円覚寺仏殿、落慶する〈空華日用工夫略集〉

臨川寺、焼く〈花營三代記〉

幕府の奏上により、（細川頼之を疎み京を去っていた）春屋妙葩・性海靈見をそれぞれ南禅寺・天竜寺住持とする〈愚管記〉

春屋妙葩、南禅寺に住す

幕府、春屋妙葩を僧録とする〈鹿王院文書〉

この年、義満、十利の序列次第を定める〈扶桑五山記〉

義満、鹿苑院を建立する

義堂周信、建仁寺住持となり、入寺する〈空華日用工夫略集〉

光明法皇崩ずる60歳〈迎陽記〉

相国寺、建つ

楠正儀和順する

無我省吾寂する72歳〈延宝伝灯録〉

義満・管領義将、春屋妙葩・義堂周信と五山十利住持の任期を3年2夏に限る等を議定する〈空華日用工夫略集〉

天境靈致寂する81歳〈空華日用工夫略集〉

幕府、康永貞治の規式に則り、諸禅寺に16条の令を下す〈円覚寺文書〉

妙葩、天竜寺に住す

『仏祖正伝宗派図』南禅寺で刊行する

楠木正議（南朝に帰順）、山名氏清と河内平尾に戦い、敗退する〈三刀屋文書〉

足利義満、左大臣となる〈公卿補任〉

通幻寂靈、総持寺に住する

西暦	北朝	閏	年	月	日	季	齢	出来事 1
1382	永徳		2	11	26		15	
1383	永徳		3				16	この年、義満、釈迦・薬師・弥勒3像を南禅寺に造立する〈天下南禅寺記〉
1383	永徳		3				16	
1383	永徳		3				16	
1383	永徳		3	1	11		16	無因、萩原宮知行の繪旨を賜う
1383	永徳		3	9	14		16	
1383	永徳		3	9	20		16	
1383	永徳		3	12	13		16	
1384	至徳	春	1				(元中)17	無文元選、遠江文広寺を創建する〈開山無文禪師行状〉
1384	至徳		1				17	
1385	至徳		2	1	28		18	無因、萩原宮寺領御消息を賜う
1385	至徳		2	2			18	
1385	至徳		2	2			18	
1386	至徳		3				19	日峰、得度する
1386	至徳		3				19	
1386	至徳		3				19	
1386	至徳		3				19	
1386	至徳		3	7	10		19	幕府、京都・鎌倉五山の座位を定め、南禅寺を五山の上とする〈円覚寺文書〉
1386	至徳		3	10			19	
1387	嘉慶		1				20	この頃日峰、日長(永)光讚寺にて省悟あり
1387	嘉慶		1				20	
1387	嘉慶		1	2			20	
1388	嘉慶		2				21	この頃日峰、方広寺無文のもとへ
1388	嘉慶		2	1	23		21	足利義満の母泐川氏、絶海中津を請じて円覚經の講説を聞く〈翊聖国師年譜〉
1388	嘉慶		2	2	9		21	
1388	嘉慶		2	4	4		21	
1388	嘉慶		2	8	13		21	
1389	康応		1				22	
1389	康応		1	10	29		22	
1390	明德		1				23	
1390	明德		1				23	師鍊撰『元亨釈書』東福寺で重刊する

出来事 2

相国寺仏殿・法堂、立柱上棟する〈空華日用工夫略集〉

妙葩、相国寺に住す
 禅林規式制定する

義満、安聖院を鹿苑院と改名し、自ら額字を書く〈空華日用工夫略集〉
 義満、絶海中津を鹿苑院住持とし、この日の入院式に臨む〈空華日用工夫略集〉
 義満、故夢窓疎石を相国寺開祖とし、春屋妙葩を二世とする〈空華日用工夫略集〉

相国寺建立

幕府、宝幢寺を十刹に列する〈鹿王院文書〉
 足利義満、義堂周信を南禅寺の住持に請する

義堂周信、金襴衣を賜う
 得勝撰『塩山和泥合水集』（五山版）甲斐塩山向嶽寺で刊行する
 義堂、南禅寺に住す

明兆、東福寺五百羅漢を描く（性海遺稿）

『中峰和尚広録』重刊する
 向嶽寺抜隊得勝寂する61歳

高野山空海廟、修造成る〈高野春秋〉
 義堂周信寂する64歳〈空華日用工夫略集〉
 春屋妙葩寂する78歳〈普明国師行状実録〉

悟明撰『聯燈会要』臨川寺で刊行する
 鹿苑院仏殿、立柱する〈万山編年精要〉

楠氏と山名畠戦敗する

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢						出来事 1	
1390	明德	閏	1	3	22	23	無文元遷寂する68歳〈延宝伝灯録〉
1390	明德		1	4	21	23	
1390	明德		1	9		23	
1390	明德		1	10	9	23	大徳寺言外宗忠寂する76歳〈言外和尚行状〉
1391	明德		2			24	日峰，大円寺時代（1395頃まで）
1391	明德		2			24	
1391	明德		2	12	30	24	
1392	明德		3			25	
1392	明德		3			25	
1392	明德		3			25	
1392	明德		3	2	13	25	
1392	明德		3	3	2	25	
1392	明德		3	10		25	
1392	明德	閏	3	10	5	25	
1392	明德	閏	3	12	27	25	
1393	明德		4			26	義天生れる
1393	明德		4	2	30	26	後円融院知行の院宣を賜う
1393	明德		4	4	26	26	
1393	明德		4	8	12	26	
1393	明德		4	8	22	26	
1394	応永		1			27	無因，海清寺を開創し住する
1394	応永		1			27	『古林清茂禪師語録』刊行される
1394	応永		1	1		27	
1394	応永		1	3		27	了庵慧明，相模最乗寺を開く
1394	応永		1	9	24	27	
1394	応永		1	12	17	27	
1394	応永		1	12	25	27	
1395	応永		2			28	
1395	応永		2			28	
1395	応永		2			28	
1395	応永		2	2	24	28	
1395	応永		2	6	20	28	
1396	応永		3			29	無因，海清寺を開創し住する
1396	応永		3			29	

出来事2

義満、祖父尊氏の三十三回忌の仏事を相国寺に修する〈大乗院日記目録〉
 義満、等持寺を十刹とする〈万山編年精要〉

この年、義満西芳寺庭園を修理する
 満幸、内野に戦い敗走、氏清は戦死する（山名氏、9国の守護職を失う）〈明德記〉（明德の乱）

崇光上皇落飾する
 『禅宗頌古聯珠通集』重刊する
 《李氏朝鮮、建国。北元滅びる》
 大内義弘、新領和泉・紀伊に山名義理討伐を開始する〈明德記〉
 細川頼之没する64歳〈高野山過去帳〉
 絶海中津、相国寺に住する
 南北朝合一する（後龜山天皇、京都に還幸、神器を後小松に譲る）
 義満、高麗の国書に対する返書の起草を絶海中津に命令する〈善隣国宝記〉

後圓融上皇崩ずる36歳〈皇代曆〉
 豊後泉福寺無著妙融寂する61歳〈真空禪師行道記〉
 南禅寺、焼く〈良賢真人記〉

一休宗純生れる

相国寺、焼く〈東寺王代記〉
 義満、將軍職を義持（この日元服、9歳）に譲る〈兼宣公記・公卿補任〉
 義満、太政大臣となる〈兼宣公記・公卿補任〉

足利義満、「十牛図」を描かせ、絶海中津に題詩を書かせる〈翊聖国師年譜〉
 寂室元光、円応禪師と諡さる
 俞良甫、法蔵撰『般若波羅蜜多心経疏』刊行する
 相国寺仏殿、立柱する（翌年6. 23供養）〈相国寺諸回向并疎〉
 義満、出家する〈東寺王代記〉

この年、大内義弘、朝鮮に大藏経を求める〈李朝実録〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事 1

1396	応永	3	3	29	義満、氏満に円覚寺の仏舍利を求める〈鎌倉管領九代記〉
1397	応永	4		30	
1397	応永	4	2	28	30
1397	応永	4	4	16	30
1397	応永	4	8		30
1398	応永	5		31	日峰海清寺へ
1398	応永	5	1	13	31
1398	応永	5	6		31
1398	応永	5	10	25	31 義満、妙心寺を祈願寺とする〈妙心寺文書〉
1398	応永	5	10	25	31 鹿苑院殿祈願所状を受ける
1398	応永	5	11	4	31
1399	応永	6		32	拙堂、青蓮院に幽せられ妙心寺・寺産領没収され、妙心寺は中絶
1399	応永	6	1		32 『三国仏法伝通縁起』刊行する〈刊記〉
1399	応永	6	9	15	32
1399	応永	6	10		32 絶海中津、足利義満の使として大内義弘を論ずも義弘きかず、12月戦死する44歳
1399	応永	6	10	13	32 大内義弘、義満の召喚に対し、和泉堺まで来て動かず、足利満兼と通じて反義満の兵を徴する〈寺門事条々聞書・萩審関聞録〉
1399	応永	6	12	21	32 大内義弘45、幕府軍と堺に戦い敗死、弟弘茂降服する〈寺門事条々聞書〉(応永の乱)
1400	応永	7		33	
1400	応永	7		33	勅して大徳寺住持は他山と混ざるを禁止する
1400	応永	7		33	
1400	応永	7		33	
1400	応永	7		33	
1401	応永	8		34	
1401	応永	8		34	『碧巖録』刊行する
1401	応永	8	2		34
1401	応永	8	2	29	34
1401	応永	8	3	5	34
1401	応永	8	8		34

出来事 2

この年、渋川満頼、朝鮮に大藏経を求める〈李朝実録〉
 絶海中津、相国寺住持となる〈扶桑五山記〉
 義満、北山西園寺第の跡地に別第（北山第）を立柱上棟、やがて金閣と呼ばれる〈武家年代記・足利治乱記〉
 小早川春平、安芸仏通寺を創建し、愚中周及を開祖とする〈大通禪師語録〉

崇光法皇崩ずる65歳〈敦有卿記〉
 勅して大徳寺を再興する

足利氏満没する40歳〈迎陽記〉

義満、父足利義詮三十三回忌追善のため、千僧を集め相国寺七重大塔供養を行う〈相国寺塔供養記〉

この年、世阿弥、『風姿花伝』第1～第3をひとまず著す〈奥書〉

相国寺、天下第一刹と為す
 内裏炎上、北山殿に遷幸する
 曇秀撰『大光明蔵』刊行する

明主、義満を日本王に封ずる

円覚寺、焼く
 土御門内裏、焼く（8.3造営事始）〈迎陽記〉
 幕府、相国寺を五山第一刹とし、天竜寺を第二とする〈青嶂集〉
 絶海中津、三たび相国寺に住し、同時に鹿苑僧録となる

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢					出来事 1	
1402	応永		9		35	
1402	応永		9		35	
1402	応永		9	3	35	
1404	応永		10		36	南禅寺廷用宗器、青蓮院義円より妙心寺領を受ける
1403	応永		10		36	廷用、妙心寺を龍雲寺と改称微笑塔を護持する
1403	応永		10	7 5	36	青蓮院道法親王崩ずる72歳〈本朝高僧伝〉
1403	応永	閏	10	10 28	36	
1404	応永		11		37	
1404	応永		11		37	祖一編『仏祖正法直伝』復刻する
1405	応永		12		38	
1405	応永		12		38	
1405	応永		12	4 5	38	
1405	応永		12	12 20	38	無因、大徳寺入寺の論旨を辞す
1406	応永		13	10	39	この月上旬日峰、無因からの印状（於円福寺）
1407	応永		14		40	義天、義山に就て薙髮する
1407	応永		14	6 21	40	義満、相国寺法華懺法に臨む〈教言卿記〉
1407	応永		14	8 5	40	
1407	応永		14	11	40	
1408	応永		15		41	雪江生れる
1408	応永		15	5 6	41	
1408	応永		15	6	41	
1409	応永		16		42	後小松天皇、皇居の門（唐門）の寄附あり（現、四脚門）
1409	応永		16	8 25	42	
1409	応永		16	9 14	42	絶海中津に仏智広照国師の号を賜る〈絶海録〉
1410	応永		17		43	無因、美濃無着庵に閑棲し海清寺に帰老する
1410	応永		17		43	義天、建仁寺に掛搭する
1410	応永		17		43	
1410	応永		17	2 28	43	幕府、天竜寺を五山第一に復する〈扶桑五山記〉
1410	応永		17	6 4	43	無因宗因寂する85歳興文円慧禪師
1411	応永		18		44	日峰、春木荘、無着庵に入寺する
1411	応永		18	9 9	44	

出来事2

天竜寺、五山第一位する
世阿弥「風姿花伝」を著す

義満、諸国の南禅寺領を守護使不入の地とする〈南禅寺文書〉

紹隆寺編『仏果園悟禅師語録』臨川寺で刊行する

* 絶海中津『焦堅藻』
『無門関』武蔵広園寺で刊行する
絶海中津寂する70歳〈南禅寺住持位次〉

義満、明使を北山第に引見する〈教言卿記〉
鎌倉円覚寺、焼く

足利義満没する51歳〈教言卿記〉
明兆、東福寺「涅槃図」を描く〈款〉

愚中周及寂する87歳〈愚中和尚年譜〉

《永楽版カンギユル開版》

義持、明使の入京を許可せず、この日、明使、兵庫より帰国する〈如是院年代記〉（明との通交中絶）

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢					出来事 1	
1411	応永	18	12	1	44	
1412	応永	19			45	この頃日峰，朝熊山時代（1411～1411）
1412	応永	19	6	21	45	
1412	応永	19	8	18	45	
1413	応永	20			46	
1414	応永	21			47	
1414	応永	21	3	29	47	
1414	応永	21	4	14	47	
1414	応永	21	12		47	
1415	応永	22			48	日峰，瑞泉寺を開創，本源庵を創建する
1415	応永	22			48	この年以前，如拙，「瓢鮎図」（国宝，退蔵院）を描く〈太白真玄賛〉
1415	応永	22			48	悟溪生れる
1415	応永	22			48	
1416	応永	23			49	悟溪宗頓生れる
1416	応永	23	6	1	49	義持，武器所持の相国寺僧を遠流に処す〈看聞御記〉
1416	応永	23	9		49	幕府，後亀山法皇を吉野から大覚寺に迎える〈看聞御記〉
1416	応永	23	10	2	49	
1417	応永	24			50	特芳生れる
1417	応永	24	3	3	50	
1417	応永	24	10		50	祖芳，『聖一國師年譜』を刊行する
1418	応永	25	1	24	51	
1419	応永	26			52	特芳禪傑生れる
1419	応永	26			52	
1419	応永	26			52	
1420	応永	27			53	
1420	応永	27			53	この年，旱魃となり，餓死する者多数〈年代記残編〉
1420	応永	27			53	
1420	応永	27			53	
1420	応永	27	6	16	53	

出来事 2

鹿苑院主大岳周崇，幕府の旨を承け，禪宗寺院に煩費省略を令する〈建仁寺本当寺規範〉

南蛮船，小浜に来航する〈若狭国税所今富名領主代々次第〉
北野社経藏に，一切経書写供養する〈山科家礼記〉

清涼寺本『融通念仏縁起』この頃成立
義持，諸国南禅寺領の諸公事・段銭を免除する〈南禅寺文書〉
足利義持，義満の冥福を祈り，等持寺において法華八講を修する〈満濟准后日記〉
建長寺，焼く

一休宗純，堅田の華叟宗曇に参ずる

足利満隆・上杉氏憲ら，鎌倉府を襲い，足利持氏，駿河瀬名に逃れる〈鎌倉大日記〉

上杉憲基，円覚寺に去冬以来の敵味方死者の冥福を祈る〈円覚寺文書〉

幕府，足利義嗣25を殺す〈看聞御記〉

従尊に生前禪師を宣下する
（ツオンカバ没する）

明使来る

聖罔没する
明版大藏經（北藏）開版始まる（1440完成）
朝鮮回礼使宋希璟，対馬襲撃の意図釈明のため，宝幢寺で義持に会見し，国書・経本を呈する〈老松堂日本行録〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事 1

1420	応永	27	6	27	53	京都地方に大地震、油小路焼く〈看聞御記〉
1421	応永	28			54	
1421	応永	28	10	19	54	南禅寺方丈、再建される〈南禅寺記〉
1421	応永	28	11	12	54	円覚寺、焼く〈武家年代記〉
1422	応永	29	1	12	55	
1422	応永	29	2	1	55	細川義之寂する60歳〈看聞御記〉
1422	応永	29	5		55	足利義持、朝鮮に大蔵経を求める〈善隣国宝記〉
1422	応永	29	10		55	
1422	応永	29	12	15	55	
1423	応永	30	4	25	56	義持、仁和寺等持院で出家する〈満濟准后日記〉
1423	応永	30	5		56	
1424	応永	31	4	12	57	
1424	応永	31	8		57	義持、朝鮮に重ねて大蔵経の版木を求める〈善隣国宝記〉
1425	応永	32			58	景川宗隆生れる
1425	応永	32			58	禅興編『徹翁和尚語録』刊行する
1425	応永	32	2	27	58	
1425	応永	32	5		58	
1425	応永	32	8	14	58	
1425	応永	32	11	3	58	
1426	応永	33			59	
1426	応永	33			59	
1426	応永	33	1	19	59	
1426	応永	33	6	27	59	
1426	応永	33	8	25	59	
1427	応永	34			60	
1427	応永	34	1	25	60	義天、日峰より衣鉢戒法を受ける
1428	正長	1			61	東陽英朝生れる
1428	正長	1			61	
1428	正長	1	1	18	61	
1428	正長	1	1	19	61	青蓮院義円(義宣、義教と改名)、後嗣となる 〈満濟准后日記〉
1428	正長	1	2	13	61	日峰、義天に印可する
1428	正長	1	6	26	61	巖中周噩寂する70歳〈延宝伝灯録〉
1428	正長	1	6	27	61	華叟宗曇寂する77歳〈大機弘宗禅師行状〉

出来事 2

この年、飢饉・疾疫流行する〈皇代記〉

一条兼良、『公事根源』を著す

南禅寺帰雲院，焼く

幕府，僧殺害により，南禅寺僧48人を捕え，寺中の兵具を没収する〈看聞御記〉

朝鮮使，幕府に大藏経を贈る〈看聞御記〉

後龜山法皇崩ずる〈満濟准后日記〉

足利義量没する19歳〈満濟准后日記〉（しばらく將軍空位）

朝鮮，幕府に返書し，大藏経の版木を贈りがたいことを伝える〈善隣国宝記〉

相国寺，焼く

義持，相国寺（8. 14に全焼）仏殿立柱に臨む〈兼宣公記〉

性智等編『大燈国師語録』刊行する

五山版の刊行，衰え始める

興福寺僧徒，東大寺と争い，その尊勝院を焼く〈薩戒記〉

興福寺五重塔（国宝），上棟する〈古記部類〉

甲斐武田信長，持氏に降る〈鎌倉大草紙〉

一休，後小松上皇に禅要を奏対する

* 足利義持「寒山図」「希袋図」

足利義持没する43歳〈満濟准后日記〉

西暦	北朝	閏	年	月	日	季	齢	出来事 1
1428	正長		1	7	20		61	
1429	永享		1				62	
1430	永享		2				63	日峰, 瑞泉寺より妙心寺に住する (或は永享3年)
1430	永享		2				63	
1431	永享		3	3	24		64	
1431	永享		3	8	20		64	
1431	永享		3	12			64	竺源恵梵, 『類字源語抄』を著す
1432	永享		4				65	廷用, 西堂根外宗利に微笑庵 (微笑塔の敷地) を譲る
1432	永享		4				65	諸老, 瑞泉寺の日峰を中興の盟主に推す
1432	永享		4				65	日峰宗舜, 妙心寺の中興にあたる
1432	永享		4	3	20		65	龍雲, 廷用宗利に妙心寺領を還附する
1433	永享		5				66	
1433	永享		5	10	20		66	
1434	永享		6	5	16		67	
1434	永享		6	8	18		67	
1434	永享		6	10	4		67	
1435	永享		5				68	
1436	永享		8				69	
1436	永享		8				69	宗峰妙超百年忌行われる
1436	永享		8	5	30		69	幕府, 相国寺に法華経を新刻させ, 大般若経の闕卷を補刻させる (蔭涼軒日録)
1436	永享		8	11	6		69	
1437	永享		9				70	
1437	永享		9				70	
1437	永享		9	2	5		70	
1437	永享		9	8			70	廷用に徳光普照禅師号を賜う
1437	永享		9	10	10		70	
1438	永享		10				71	
1438	永享		10	8	23		71	
1439	永享		11				72	
1439	永享		11	2	10		72	

出来事 2

称光天皇崩ずる28歳〈満濟准后日記〉

大和片岡達磨寺を重建する

大嘗会を執行する

後小松上皇，出家する〈椿葉記〉

東福寺殿司吉山明兆寂する80歳〈画工譜略〉（独自の画風で多くの作品を残す）

義教使を明に遣わす

後小松法皇崩ずる57歳〈看聞御記〉

貞成親王，一溪に『元亨積書註』を点進させる〈看聞御記〉

幕府，鎌倉府と内通した延暦寺僧の所領を没収する〈看聞御記〉

延暦寺衆徒，強訴する〈看聞御記〉

相国寺僧堂，立柱する

東寺塔，造営を始める

鎌倉日蓮宗，足利持氏により弾圧される〈永享問答記〉

* 惟肖得巖『少林一曲』『東海瓊華集』

慧然等編『鎮州臨濟慧照禪師語録』法性寺で刊行する

足利義教，法華経66部を諸国の寺に領納する〈蔭涼軒目録〉

義教，万寿寺仏殿立柱に臨む〈蔭涼軒目録〉

三十三間堂成る

『新統古今和歌集』四季部，奏覧される〈看聞御記〉

日親，立正安国論を再上する

足利持氏42歳，憲実の兵に攻められ，鎌倉永安寺で自殺する〈永享記〉（永享の乱）

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢						出来事 1	
1439	永享		11	6	30	72	大愚性智寂する〈延宝伝灯録〉
1439	永享		11	12	26	72	
1440	永享		12			73	
1440	永享		12	2	19	73	
1440	永享		12	4	19	73	
1440	永享		12	11	8	73	
1441	嘉吉		1			74	明江，後崇光院に妙心寺領の事を奏願する
1441	嘉吉		1			74	
1441	嘉吉		1			74	
1441	嘉吉		1	6	24	74	
1441	嘉吉		1	6	24	74	
1441	嘉吉		1	9	3	74	
1441	嘉吉		1	9	19	74	
1442	嘉吉		2			75	持之，日峰の為に弘源院を創する
1442	嘉吉		2			75	
1442	嘉吉		2			75	
1442	嘉吉		2	8	4	75	
1443	嘉吉		3			76	
1443	嘉吉		3	5	9	76	海門承朝寂する70歳〈延宝伝灯録〉
1443	嘉吉		3	6	19	76	
1443	嘉吉		3	7	21	76	
1443	嘉吉		3	9	下旬	76	
1443	嘉吉		3	9	23	76	
1444	文安		1			77	日峰，一休と問答する
1445	文安		2			78	大徳寺を天下第一に復する
1445	文安	秋	2			78	養叟宗頤，大徳寺に住する
1445	文安		2	4	24	78	
1445	文安		2	6		78	円覚寺中明心正寂する
1445	文安		2	8		78	大徳寺を元弘の旧規に復し，天下第一とする
1445	文安		2	9		78	
1446	文安		3			79	日峰，宗深に雪江号を授ける
1446	文安		3			79	
1446	文安		3			79	
1446	文安		3	1	2	79	東大寺戒壇院，焼く〈東寺執行日記〉
1446	文安		3	11		79	日峰，雪江の為に正深を宗深と安名する

出来事2

朝鮮使節、室町殿に参る〈蔭涼軒目録〉

日親、『立正治国論』を著わす
 義教、朝鮮使に答書を与える〈蔭涼軒目録〉
 周文を雲居寺本尊仏師に任ずる〈蔭涼軒目録〉
 公武寺社に、その蔵書目録を献じさせる〈管見記〉

安芸仏通寺を御祈願所とする
 高野山金堂、建立する
 足利義教寂する48歳〈建内記〉
 赤松満祐・教康父子、将軍義教を私第に誘殺する〈建内記〉
 京都周辺で、徳政要求の土一揆、蜂起する〈永享記〉
 南禅寺叔英播寂する〈延宝伝灯録〉

修熾法を清涼殿に講ずる
 『勅修百丈清規』重刊する
 細川持之没する43歳〈康富記〉

世阿弥元清寂する81歳〈観世小次郎画像之銘文〉

将軍義勝、朝鮮使の足利義教への弔問を受ける〈康富記〉
 足利義勝没する10歳〈建内記〉
 首謀者ら大部分捕らえられるが、神璽は行方不明となる〈看聞御記〉(禁闕の変)
 南朝皇族尊秀王ら、禁裏の神璽・宝剣を奪い、延暦寺に抛る。内裏、焼く〈看聞御記〉

細川勝元が管領になる〈執事補任次第〉

越前隆興寺希明清良寂する

周鳳、僧録司となる
 永光寺本『正法眼蔵』書写する

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢					出来事 1		
1447	文安		4	4	2	80	
1447	文安		4	5		80	
1447	文安		4	7	5	80	
1447	文安		4	8	22	80	日峰宗舜，大徳寺に奉勅入寺する
1448	文安		5				細川勝元，養源院を建てる
1448	文安		5				義天，養源院に住する
1448	文安		5	1	26	81	日峰宗舜（禅源大济禅師）妙心寺にて寂する81歳〈大徳寺世譜〉
1449	宝徳		1	4	12		
1450	宝徳		2				細川勝元，大龍山龍安寺を開創し，義天玄詔を招請して中興させる
1450	宝徳		2				桃隠玄朔，瑞泉寺に住持する
1450	宝徳		2				雪江，養源院に住する
1450	宝徳		2				
1450	宝徳		2	6	2		細川勝元，龍安寺を創建する〈龍安寺文書〉
1450	宝徳		2	8			義天，瑞泉寺に入寺する
1450	宝徳		2	8			
1450	宝徳		2	9			義天，瑞泉寺を退山する
1451	宝徳		3				細川勝元，丹波に竜興寺を建て義天を招く
1451	宝徳		3	1	4		
1452	享徳		1				義天，大徳寺に入寺する
1452	享徳	冬	1				義天，紫衣を賜う
1452	享徳		1				
1452	享徳		1	6			華叟宗曇，養叟宗頤の奏請により大機弘宗禅師号を追諡される。これにより一休宗純と養叟宗頤は不和となる
1452	享徳		2				
1452	享徳		2	12	12		義天，大徳寺に開堂する
1454	享徳		3				
1454	享徳		3	4	3		
1454	享徳		3	8			
1455	康正		1				
1455	康正		1				玄祥，瑞泉寺に住す
1455	康正		1				

出来事 2

南禅寺, 焼く〈康富記〉

幕府, 五山の僧らの強訴を禁止する〈鹿苑目録〉

天竜寺, 焼く〈康富記〉

山城大地震, 洛中の堂塔多く傾倒する。余震年末にまで及ぶ〈続史愚抄〉

義政, 受衣し拝塔する

疎石に仏統国師号を加諡される

等持院, 焼く〈武家年代記〉

一休宗純, 瞎驢庵に遷る

大徳寺, 焼く

勝元, 義就を逐する

畠山氏に家督争い起こり, 畠山弥三郎(政長), 細川勝元を頼る〈師郷記〉

畠山義就, 京を落ち, 弥三郎, 家督となる〈康富記〉

政長, 義就と和する

一休宗純『自戒集』撰す

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事 1

1456	康正	2	7		雲谷玄祥，仏智広照禪師の諡号を賜る
1456	康正	2	7	8	美濃汾陽寺雲谷玄寂する55歳
1456	康正	2	8	29	
1457	長祿	1			
1458	長祿	2	2		
1458	長祿	2	6	27	大徳寺養叟宗頤寂する83歳〈延宝伝灯録〉
1458	長祿	2	8		尾張雲興寺天先祖命寂する92歳
1459	長祿	3			妙心寺関山慧玄（開山国帝）百年遠忌を義天，龍安寺にて行う
1459	長祿	3			
1460	寛正	1			
1461	寛正	2			
1461	寛正	2			
1462	寛正	3			雪江，龍安寺に住する
1462	寛正	3			如是院創立する
1462	寛正	3			雪江松を栽える
1462	寛正	3	2	22	義天，雪江に印可する
1462	寛正	3	3	18	義天玄詔寂する70歳。大慈慧光禪師
1462	寛正	3	3	23	妙心寺・南禅寺・大徳寺紫衣道場となる
1462	寛正	3	8	22	雪江，大徳寺に奉勅入寺する
1462	寛正	3	11	8	
1463	寛正	4			
1464	寛正	5			
1464	寛正	5	12	8	雪江，景川宗隆に印可する
1464	寛正	5	12	8	正雪，悟溪に印別を与える
1465	寛正	6			
1465	寛正	6			
1465	寛正	6			
1466	寛正	7	2	28	
1467	応仁	1			雪江，悟溪宗頤に印可する
1467	応仁	1	3	26	雪江，瑞泉寺に入寺する
1467	応仁	1	5		応仁の大乱始まり，京都の寺院多く焼く，妙心

出来事2

後崇光院（貞成親王）崩ずる85歳〈大乘院日記目録〉

幕府，朝鮮（高麗）から贈られた『大藏経』及び奉加一万貫を建仁寺に寄附する〈蔭涼軒目録〉

五山の条定を禁止する

この年，飢饉〈碧山目録〉

大飢饉施餓鬼

この年，前年来の大飢饉となり，京中の死者8万2千という〈碧山目録〉

日親，京の細川持資邸に禁固される〈新撰長祿寛正記〉

『菩提達磨四行論』重刊される

義政，東大寺にて受戒する

天竜寺僧徒，蜂起する

延暦寺衆徒，大谷本願寺を襲う。蓮如，堅田に逃れる〈本福寺由来記〉

義政『夢中間答』の訓点を施させる〈蔭涼軒目録〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事 1

					寺・龍安寺とともに焼く。雪江、龍興寺に避難する
1467	応仁	1	6		雪江、悟溪に印状を附す
1467	応仁	1	8		悟溪、雪江の頂相を書し賛を求める
1467	応仁	1	9		
1468	応仁	2			斎藤妙椿、美濃に瑞龍寺を建て悟溪を招く
1468	応仁	2	3		勝元、城中に妙心寺・龍安寺を復興を計る。息政元をこの任に当てる
1468	応仁	2	11		勝元、義天より仁栄の号を受ける
1469	文明	1			
1469	文明	1	5	下旬	
1470	文明	2			雪江、特芳禅傑に印可する
1470	文明	2			雪江、開山無相大師の頂相に題賛する
1470	文明	2			後花園上皇、花園法皇御影に題賛を賜う
1470	文明	夏	2		悟溪、大徳寺に住する
1470	文明	2	3	14	瑞龍寺を十刹に准ずる綸旨を宣下する
1470	文明	2	12	27	
1471	文明	3			
1471	文明	3	11		夢窓疎石、大円国師と追諡される
1471	文明	3	11	4	後土御門天皇より日峰、禅源大済禅師の諡号を賜る
1472	文明	4			
1473	文明	5			雪江、特芳に龍安寺を譲る
1473	文明	5	5	11	
1473	文明	5	6	19	
1473	文明	5	6	21	雪江、大徳寺再任の綸旨を受ける
1473	文明	5	7		関山慧玄半身像に雪江賛をする
1473	文明	5	8		景川、興雲寺に開堂する
1473	文明	5	9		雪江、特芳に印可する
1473	文明	5	12	21	雪江、大徳寺入寺する
1474	文明	6			
1474	文明	6	2	2	雪江、大徳寺退院する
1474	文明	6	3		
1475	文明	7	3	6	雪江、遺誠を塔頭へ下す
1475	文明	7	3	20	景川宗隆、大徳寺に奉勅入寺する

出来事 2

一休宗純，東山山麓の虎丘庵を出て，薪村の酬恩庵に入寺する

雲居寺，焼く
雪舟，明より帰国する〈徐璉送別詩〉

後花園法皇崩ずる52歳〈宗賢卿記〉

蓮如，越前吉崎の坊舎で布教

山名宗全没する

細川勝元没する44歳〈親長卿記〉
大徳寺再興の綸旨を賜る

加賀に一向一揆が蜂起する

一休宗純，大徳寺住持の綸旨を賜る

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢					出来事 1
1475	文明		7	7	
1476	文明		8		雪江，宗円を納所とし，日單簿（正法山妙心禪寺米錢納下帳）をはじめ
1476	文明		8		特芳，妙心寺に開堂する
1476	文明		8		特芳，龍興寺に帰住する
1476	文明		8		
1476	文明		8		
1477	文明		9		
1477	文明	閏	9	1 26	後土後門天皇，妙心寺再興の論旨を雪江に降ろされる
1477	文明		9	5 12	妙心寺方丈，上棟する
1478	文明		10		
1478	文明		10		
1478	文明		10	1	雪江，東陽英朝に印可する
1478	文明		10	2 28	授翁百年遠諱行われる
1478	文明		10	9 11	特芳禅傑，大徳寺に奉勅入寺する
1479	文明		11		雪江，中風を病む
1479	文明		11		悟溪，大徳寺に再住する
1479	文明		11		政元，大心院を建立する
1479	文明		11		
1479	文明		11		
1479	文明		11	9 26	景川，瑞泉寺入寺する
1480	文明		12		細川政元・雪江，衡梅院建てる（1481年か）
1480	文明		12		
1480	文明		12	6 21	悟溪，大徳寺に再住する
1480	文明		12	7 15	東陽，龍興寺に入寺する
1480	文明		12	12	景川，妙心寺に再住する
1480	文明		12	12 13	悟溪，瑞泉寺に入寺する
1481	文明		13		細川政元，竜泉庵を建てる
1481	文明		13		雪江，景川に敷地15丈を附す
1481	文明		13		
1481	文明		13	4 2	
1481	文明		13	7	細川勝元，衡梅院を建てる
1481	文明		13	9 21	特芳，瑞泉寺に入寺する
1481	文明		13	11 19	東陽，大徳寺に奉勅入寺する

出来事 2

一休宗純、大徳寺住持新補の制を定める

太田道灌、増上寺を再興する
京都大火

東西両軍引還

大徳寺法堂、上棟する
相国寺法堂、立柱する

大徳寺仏殿、上棟する
義政、東山に隠棲する

蓮如、山科に本願寺を再興

一休宗純『狂雲集』『自戒集』を撰する
一条兼良寂する80歳〈寂胤卿記〉

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事 1

1481	文明	13	11	21	
1482	文明	14			東陽，妙心寺に住する
1482	文明	14			
1482	文明	14			
1482	文明	14	7	15	東陽，大徳寺を退院する
1483	文明	15			東陽疾む
1483	文明	15			投老軒創建される
1483	文明	15			
1483	文明	15			
1484	文明	16			利貞尼，東海庵を建立する
1484	文明	16			雪江，頂相に自賛する
1484	文明	16			悟溪，東海庵を窺む
1484	文明	16	4	15	悟溪，妙心寺に入寺する
1484	文明	16	5		雪江，悟溪に土地を附す
1484	文明	16	6	5	東陽，瑞泉寺に入寺する
1485	文明	17			東陽，推雲庵を創する
1485	明文	17	6	15	
1485	文明	17	9	22	景川，瑞泉寺に再住する
1486	文明	18			雪江，追悼撰心会を行う
1486	文明	18			
1486	文明	18			
1486	文明	18	6	2	雪江宗深（仏日真照禪師）寂する79歳
1487	長享	1			景川，龍安寺に入寺する
1487	長享	1			
1487	長享	1			(小) 方丈，後土御門天皇の綸旨により建てられる
1487	長享	1	7	17	宗門無双名刹の綸旨を賜う
1488	長享	2			政元，龍安寺を再建する
1488	長享	2			特芳，龍安寺に入寺する
1489	延徳	1			東陽，妙心寺に入寺する
1489	延徳	1			妙心寺堂舎，修造する
1489	延徳	1			如奩『禅宗正脈』を編す
1489	延徳	1	4	15	悟溪，瑞泉寺に再入寺する
1490	延徳	2			
1490	延徳	2			慧然等編『鎮州臨濟禪師語録』美濃正法寺で刊

出来事 2

一休宗純寂する88歳〈東海一休和尚年譜〉

祇園社，上棟する
足利義政，東山山莊（銀閣寺）の造営を始める

清水寺，上棟する
義政，銀閣寺を造営する

足利義政，出家する〈蔭涼軒目録〉

政元，管領と為す
真盛，西教寺を復興し，戒律念仏の道場とする

両上杉，乱を作す

北野社，焼く

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齡

出来事1

				行される
1490	延徳	2	1 7	
1491	延徳	3		
1492	明応	1		細川政元，大心院を再建する
1492	明応	1		松井越前守，特芳を龍潭寺開山に請する
1492	明応	1		
1493	明応	2		大珠院，建立される
1493	明応	2	4 16	特芳，瑞泉寺に再任する
1493	明応	2	11	南禅寺横川景三寂する65歳
1494	明応	3		興宗，大宝寺を建立する
1494	明応	3	8 26	春江寂する
1495	明応	4		
1495	明応	4	4	永源寺，再興の詔あり，黄衣地となす
1496	明応	5		東陽，定慧寺開山となる
1496	明応	5		天釈寂する
1496	明応	5		
1496	明応	5	1	東陽，『正法山六祖伝』を編す
1496	明応	5	4 25	
1497	明応	6		悦堂，妙心寺に入寺する
1497	明応	6	3 15	東陽，瑞泉寺に再住する
1497	明応	6	5	特芳，西源院に閑棲する
1497	明応	6	5 24	悟溪，大興心宗禪師の諡号を賜る
1498	明応	7		悟溪，衡梅院に方丈を建つ（上棟4月16日）
1498	明応	7		仁濟，大徳寺に瑞世する
1499	明応	8	6 26	龍安寺方丈，上棟する〈実隆公記〉
1499	明応	8	10 8	東陽，少林寺開山となる
1500	明応	9	3 1	景川宗隆（本如実性禪師）寂する76歳
1500	明応	9	6	
1500	明応	9	9 6	悟溪宗頓（大興心宗禪師）寂する85歳
1500	明応	9	9 28	
1500	明応	9	11	
1501	文亀	1		東陽，大遷寺開祖となる
1501	文亀	1		『高峰和尚禅要』刊行される

出来事 2

足利義政没する55歳〈実隆公記〉

義植没する

天縦，大徳寺に入寺する

浄土宗十夜法要始まる

斉藤利国父子，戦死する

赤松政則没する42歳〈実隆公記〉

祇園会の山鉾巡行復興する

後土御門天皇崩ずる59歳〈和長卿記〉

後土御門帝御分骨を常照寺に奉葬する

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事 1

1501	文亀	1					
1501	文亀	1	1	26		東陽、瑞泉寺を退院する	
1502	文亀	2				独秀、妙心寺に瑞世する	
1502	文亀	2				西川、瑞龍寺に入寺する	
1502	文亀	2					
1502	文亀	2	2			独秀、勅により大徳寺に住する	
1502	文亀	2	5				
1503	永正	1					
1503	文亀	3	8			特芳の請により瑞龍寺に勅額を賜う	
1504	永正	1				宗休、妙心寺に入寺する	
1504	永正	1				興宗、大徳寺に入寺する	
1504	永正	1				特芳、西源院に入寺する	
1504	永正	1				称好庵創建される	
1504	永正	1				養花院創建される	
1504	永正	1				含珠軒創建される	
1504	永正	1					
1504	永正	1	8	24		東陽英朝（大道真源禪師）、少林寺にて寂する 77歳〈延宝伝灯録〉	
1505	永正	2	8	2		後柏原天皇、雪江に仏日真照禪師の号を勅諡する	
1506	永正	3				崙匡、瑞泉寺に住する	
1506	永正	3					
1506	永正	3	9	10		特芳禅傑（大寂常照禪師）寂する88歳〈延宝伝灯録〉	
1507	永正	4				鄧林宗棟、前住大徳を経ずに、妙心寺へ奉勅入寺を敢行する	
1507	永正	4	12				
1508	永正	5					
1509	永正	6	2			柏庭宗松、妙心寺の再興独立をはかる	
1509	永正	6	2	25		後柏原天皇より、妙心寺紫衣綸旨を賜う	
1509	永正	6	3	14		大徳寺訴状を伝奏に提起する	
1509	永正	6	3	29		柏庭、妙心寺再興費用を末派に課す	
1509	永正	6	5	3		柏庭、始めて奉勅賜紫開堂する	
1509	永正	6	12	2		利貞尼、御室仁和寺真乗院の領地を買求め、妙心寺に寄進する	

出来事 2

細川政元，日蓮宗本国寺と浄土宗妙講寺の僧を召して宗論させる

祇園会，再興される

村田珠光（茶人）寂する81歳

この年，大旱魃，和泉でも飢饉〈永禄年代記〉

雪舟寂する

永平寺に「本朝曹洞第一道場」の勅額を賜る

相国寺，再建される

西暦：北朝：閏：年：月：日：季：齢

出来事 1

1510	永正	7				富春軒創建される
1510	永正	7				仁濟, 大徳寺に瑞世する
1510	永正	7	6	21		妙心寺敷地の繪旨を賜う

参 考 文 献

	書 名	著者・編者	発行所	年度：月：日
1	仏教辞典	中村元ほか	岩波書店	1989 12 5
2	中世宮廷の学問をめぐる問題 ——花園天皇周辺の動向につ いての再検討——	長永孝弘	白山史学26	1990 4 28
3	「妙心寺六百年史」年表	柴野恭堂	花園臨済学院 専門学校禅学 研究会	1935 12 15
4	望月仏教大辞典(6)年表	望月信亨	世界聖典刊行 協会	1955 2 28
5	東方年表	藤島達朗・野上俊静	平楽寺書店	1956 10 1
6	日本史事典(改訂増補)	京都大学文学部国史 研究室	東京創元社	1960 1 20
7	仏教小年表	三枝 恵	大蔵出版	1973 7 5
8	日本禅宗年表	森 大狂	臨川書店	1974 10 30
9	妙心寺第2世授翁藤房異人論 考	竹貫元勝	花園史学	1976 12
10	妙心寺 寺社シリーズ(2)	荻須純道	東洋文化社	1977 4 21
11	禅学大事典	駒沢大学禅学大事典 編集所	大修館書店	1978 6 30
12	仏教史年表	山崎 宏・笠原一男	法蔵館	1979 1 20
13	花園天皇宸記 史料纂集	村田正志	統群書類従完 成会	1982 2 15
14	妙心寺 ——六百五十年の歩 み	木村静雄	妙心寺大法会 事務局	1984 4 15
15	雪江禪師語録 五百年遠譚記 念	平野宗浄	妙心寺大法会 事務局	1984 6 2
16	光明寺文書 史料纂集〔古文 書編〕19	村田正志・中野達平	統群書類従完 成会	1985 3 25
17	五山禅林宗派図	玉村竹二	思文閣出版	1985 12 15
18	三重県に於ける仏教伝播史 ——臨済宗編——火涼叢 書——	衣斐弘行	龍光寺	1986 8 15
19	朝熊岳概観史 金剛証寺の歩 み	川口素道	金剛証寺	1988 1 25

出来事 2

20	初期妙心寺の世代とその住持 位次	加藤正俊	禅学研究67	1989	10	1
21	日本文化総合年表	市古貞次・浅井清 ・久保田淳・篠原昭 二・堤 精二・堀内 秀晃・益田 宗・三 好行雄	岩波書店	1990	3	8
22	日本史年表（増補版）	東京学芸大学日本史 研究室	東京堂出版	1990	11	1
23	長福寺文書の研究	石井 進	山川出版社	1992	1	20